

全学・学部・学科

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー

※ 表における表記は次のとおり。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）：DP

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）：CP

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）：AP

1 大学

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>本学は、建学の理念である「人間尊重と福祉の増進」の具現化に向けて、地域社会や他の教育研究機関との自由かつ緊密な交流連携のもとに、人間・社会・自然の関係性を重視した実学を創造し、それを研究教授することによって知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く人材の育成を図り、もって地域の学術文化の進展及び産業の振興に寄与することを目的としています。</p> <p>したがって、次の能力を身に付け、かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 豊かな教養と高い人間性を身に付けている。 ● グローバル並びにローカルに活躍し得る企画提案力とコミュニケーション力を身に付けている。 ● 専門性を修得し、課題を発見し解決できる能力を身に付けている。
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>本学は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 カリキュラムは、共通教育科目、学部教育科目及び教職教育科目に区分しています。 2 共通教育科目では、基礎的知識の体系的理解、生涯にわたる知的活動や社会生活に必要な論理的思考力・問題発見力・批判力・情報処理など汎用的技能の修得、地域連携を通じた社会人基礎力や課題解決力の修得、グローバル化の時代に役立つ語学・異文化理解によるコミュニケーション力の修得を柱として、知的自律性を培うための教養と技能を涵養する教育を全学生に実施します。 3 学部教育科目では、共通教育科目の修得で獲得した知識と技術を基盤に、所属学科・専攻等ごとに専門の学術を学び、さまざまな社会的要請に的確に対応できる専門性と実践的能力を育成します。 4 学部教育のカリキュラムは、所属する学科等のカリキュラム・ポリシーに基づいて専門性・問題解決能力の修得に向け編成しています。 5 共通教育科目及び各学部教育科目を通じて、地域課題を知り、それを解決に導くための理論と基礎及び実践的方法を修得します。 6 教職教育科目では、栄養学科に栄養教諭一種免許課程、保健福祉学科子ども学専攻に幼稚園教諭一種免許課程を設けています。
<p>AP (入学者受入の方針)</p>	<p>岡山県立大学は、保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部の3学部からなり、「人間尊重と福祉の増進」を建学の理念として、平成5年に設立されました。</p> <p>本学は、建学の理念の具現化に向けて、地域社会や他の教育研究機関との自由かつ緊密な交流連携のもとに、人間・社会・自然の関係性を重視した実学を創造し、それを研究教授することによって知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く人材の育成を図り、もって地域の学術文化の進展及び産業の振興に寄与することを目的としています。</p> <p>したがって、求める学生像は次のとおりです。</p>

	<ul style="list-style-type: none">● 人間・社会・自然について幅広く学び、それらの関係性を探究したい学生● 実学を身に付け、国内・国外の幅広い分野で社会に貢献したい学生● 新技術・知識の創出に意欲を持ち、地域と世界へ向けて情報発信したい学生
--	---

2 保健福祉学部

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>保健福祉学部は、地域の人々の健康維持と増進に積極的に貢献できる保健、医療、福祉に関する基本的知識と技術を修得し、健康課題に対して科学的な思考や分析に基づいた課題解決能力を備え、高い倫理観と豊かな人間性にあふれ、さらに社会の変化やグローバル化に柔軟に対応できる力とコミュニケーション能力を有する人材を養成することを目指しています。</p> <p>したがって、本学部では次の能力を身に付け、かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <p>【教養】 豊かな教養を身に付けている。</p> <p>【倫理観】 豊かな感性、倫理観を有し、人を支援する心を身に付けている。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】 外国語を含めたコミュニケーション能力と企画提案力を身に付けている。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている。</p> <p>【専門性】 看護、栄養、福祉のそれぞれの分野における十分な専門的知識と技術を身に付けている。</p> <p>【課題発見・解決力】 科学的、論理的思考に基づいた課題探究と解決に必要な多様な基礎知識とそれらを活用する能力を身に付けている。</p> <p>【生涯学習力】 将来にわたって応用知識・技術を積み上げていける力を身に付けている。</p>
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>保健福祉学部は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <p>【導入教育】 1年次に修学基礎に関する共通教育科目により、大学での学びについての理解を深めます。</p> <p>【教養】 幅広い教養とともに専門教育を学ぶために必要な基礎知識を身に付けるための共通教育科目として、「人文・社会科学要論」をはじめとする人文・社会科学群科目や「自然科学要論」をはじめとする自然科学科目群において基礎的知識の体系的理解を行います。</p> <p>【倫理観1】 「大学で学ぶ」、「フレッシュマンセミナー」では大学生活に必要な汎用的技能に加えて豊かな人間性と倫理観を身に付けます。</p> <p>【倫理観2】 臨地実習と統合実習・総合演習では、倫理観と人を支援する心を醸成し、豊かな感性を育みます。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力1】 「English Language Program」をはじめとする語学科目でコミュニケーション能力とグローバルな視点を身に付けます。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力2】 「海外研修（保健福祉学）」において異文化理解によるコミュニケーション力を修得します。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や「地域保健福祉演習」等を通じて地域課題を知り、それを解決に導くための理論と企画提案力を修得します。</p>

	<p>【専門性】 専門教育においては、現場での課題解決に必要となる多様な基礎知識と、それらを活用できる実践力を養成するために、各学科において、基礎から専門にかけて講義科目を体系的に配置するとともに、臨地実習を含む豊富な演習・実験・実習科目を設置しています。</p> <p>【課題発見・解決力】 【生涯学習力】 科学的・論理的思考に基づいた課題発見力と解決力、批判力を育成し、将来にわたって応用知識・技術を積み上げていける力を身に付ける卒業研究を、いずれの学科においても1年以上履修します。</p> <p>【資格取得】 共通教育と専門教育を通じて、各学科で国家試験受験資格を含む各種資格ならびに教諭一種免許等を得るために必要な科目が履修できます。</p> <p>【教育力】 教職課程を設置している学科・専攻において、履修生は課程の学びを通じて、求められる教育力を養います。</p>
<p>AP (入学者受 入の方針)</p>	<p>【人材育成像及び求める学生像】 保健福祉学部は、看護学科、栄養学科、保健福祉学科の3学科で構成されています。</p> <p>本学部は、地域の人々の健康維持と増進に積極的に貢献できる保健、医療、福祉に関する基本的知識と技術を修得し、健康課題に対して科学的な思考や分析に基づいた課題解決能力を備え、高い倫理観と豊かな人間性にあふれ、さらに社会の変化やグローバル化に柔軟に対応できる力とコミュニケーション能力を有する人材を養成することを目指しています。したがって求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護・栄養・福祉のそれぞれの分野に明確な目的意識と意欲、情熱を持っている学生 ● 十分な基礎学力を備え、論理的思考能力を貴ぶ学生 ● 人間理解に基づく保健・医療・福祉を学び、その成果を広く地域や世界に発信する意欲と創意にあふれる学生 ● 豊かな感性を育み、様々な人とコミュニケーションできる能力、人を支援する心を身に付けたい学生

2-(1) 看護学科

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>看護学科は、人々が健康で豊かなその人らしい人生が実現できるように、看護の専門知識と技術を活かして、地域におけるあらゆる健康レベルの人々（家族・集団・地域）の生涯を通じた健康を支援し地域社会に貢献できる看護専門職の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本学科では次の能力を身に付け、かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <p>【教養】 豊かな教養を身に付けている。</p> <p>【倫理観】 看護専門職としてのアイデンティティを形成し、専門職業人の持つべき知識・価値観・倫理観を自ら継続・発展させていく能力を身に付けている。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】 グローバルな視点を持ち、看護の実践・教育・研究領域におけるリーダーやスペシャリストとして、必要な看護を創造するために企画や解決策を提案し、社会に貢献できる能力を身に付けている。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている。</p> <p>【専門性1】 人間理解を基盤にしたヒューマンケアリングが実践できる能力を身に付けている。</p> <p>【専門性2】 看護の専門知識・技術を用いて、人々の生涯にわたる多様な健康レベルの人々の健康課題を科学的・論理的に判断し、解決方策を提案できる能力を身に付けている。</p> <p>【専門性3】 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働できるマネジメント力、実践力を身に付けている。</p> <p>【課題発見・解決力】 【生涯学習力】 自ら学び続け、将来は看護の実践・教育・研究領域において、問題解決できる力と将来にわたって自ら積み上げていく力を身に付けている。</p>
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>看護学科は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <p>【導入教育】 1年次に修学基礎に関する共通教育科目により、大学での学びについての理解を深めます。</p> <p>【教養】 1年次から2年次までの共通教育科目の履修を通して、人間や社会を理解するための素地となる豊かな教養を身に付け、専門基礎へ導入を図るための基盤を育成します。基礎的知識の体系的理解を得るため「人文・社会科学要論」「自然科学要論」、専門分野共通の基礎として「健康科学要論」などを設けています。</p> <p>【倫理観1】 共通教育において、高い倫理観を身に付けるため「生命倫理学」などの科目を設けています。</p> <p>【倫理観2】 専門科目における「統合と実践カテゴリー」科目をはじめとして、多くの科目において、倫理観を養い、人を支援する心を醸成し、豊かな感性を育みます。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力1】</p>

「English Language Program」をはじめとする語学科目でコミュニケーション能力とグローバルな視点を身に付けます。

【異文化理解・コミュニケーション力2】

「海外研修（保健福祉学）」において異文化理解によるコミュニケーション力を修得するほか、「国際保健看護論」などを通じて、専門分野の異文化理解を深めます。

【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】

「岡山創生学」等の社会連携科目や「地域保健福祉演習」等を通じて地域課題を知り、それを解決に導くための理論と企画提案力を修得します。

【専門性1】

1年次から2年次までに学部教育「専門基礎分野」等の科目を履修します。ここで、人体の仕組みと病態や人間生活、健康支援や社会制度を学びます。さらに3～4年次への「専門分野」導入として「基礎看護学カテゴリー」をはじめとする、各種の看護学カテゴリー科目について学び、基礎的な知識と技術を修得します。

【専門性2】

2年次から3年次には「専門分野」科目を主に履修します。ここで「小児、成人、母性、老年や精神看護学カテゴリー」など各領域の学びをはじめるとともに、「統合と実践カテゴリー」における看護アセスメント、マネジメント教育等を通じて、主要な健康課題と健康増進のための理論を修得するとともに、倫理観に基づいた看護実践を提供できる基盤としての能力を育成します。その上で、健康問題を持つ個人・集団・地域を対象に看護診断をし、解決に必要な知識と技術を育成します。さらに他の専門職と協働して、リーダーシップを発揮できる力を育成する「チームガバナビリティ演習」を設けています。

【専門性3】

3年次から4年次には「小児、成人、母性、老年や精神看護学」など、各領域別の講義や臨地実習を行います。これらの科目を通じて、人間の尊厳や多様性を学び、科学的根拠に基づくアセスメント及びヒューマンケアリングが実践できる基盤を育成するとともに、他の医療専門職と連携し協働する力を養います。さらに「統合実習」を通じて、これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、看護実践力とともに倫理観を高めます。

【課題発見・解決力】 【生涯学習能力】

3年次から4年次に「看護研究」「卒業研究」の科目を通じて、これまでに学んだ専門的知識や実践力を広い視点で統合し、生涯に渡って研究的な方法を用いて健康課題を特定し解決策を論理的に説明するとともに企画提案できる能力を育成し、保健医療分野でのリーダーとして必要な基盤を育成します。

【資格取得】

本学科は、看護師国家試験受験資格を満たす科目を卒業要件とし、一部の者には助産師国家試験受験資格に必要な科目が選択できるように配置しています。

AP
(入学者受
入の方針)

【人材育成像及び求める学生像】

看護学科は、人々が健康で豊かなその人らしい人生が実現できるように、看護の専門知識と技術を活かして、地域におけるあらゆる健康レベルの人々（家族・集団・地域）の生涯を通じた健康を支援し、地域社会に貢献できる看護専門職の育成を目指しています。

したがって、求める学生像は次のとおりです。

- 人々の健康に関心があり、学ぶことに対する意欲がある学生
- 他者を思いやり、主体性をもって多様な人と協働することができる学生
- 看護の多様な側面を学ぶ上で必要な理数系または文科系の基礎学力がある学生
- 探求心があり、根拠を基に論理的に解決する学生
- 何事にも前向きに取り組み、チャレンジ精神が旺盛な学生
- 看護専門職として、地域や国際社会に貢献したい学生

【入学者選抜の基本方針】

看護学科では、高等学校で主体性をもって学習することによって、看護を学問として追及するための基礎学力を備えた学生、看護の実践を発展させる可能性を持つ好奇心豊かで行動力のある学生を選抜するために、一般入試（前期日程、後期日程）および特別選抜（推薦入試など）を実施し、複数の入学選抜方式を採用することにより、多様な人材の受け入れを目指しています。

・一般入試（前期日程、後期日程）

前期日程および後期日程ともに、大学入試センター試験では5教科5科目又は5教科6科目および個別学力検査では小論文と面接を課し、高等学校で得た基礎的な知識や技能、思考力、判断力、表現力等を総合評価します。

小論文では、自然、社会、文化に関する課題について論述させ、理解力、思考力、文章表現力等を総合評価します。

面接は、集団による方法で実施し、出願書類を参考に学習意欲、表現力、社会性、協調性等を総合評価します。

・推薦入試

小論文では、自然、社会、文化に関する課題について論述させ、理解力、思考力、文章表現力等を総合評価します。面接は、個人面接を行い、出願書類を参考に、関心、豊かな人間力、知識、教養、探求心等を総合評価します。

・帰国生入試

小論文では、自然、社会、文化に関する課題について日本語で論述させ、日本語の理解力と文章表現力、思考力等を総合評価します。面接では、日本語による個人面接を行い、適正、意欲、一般教科の基礎学力、コミュニケーション能力等を総合評価します。ただし、面接の評価が著しく低い場合は、総得点にかかわらず不合格とすることがあります。

・私費外国人留学生入試

日本留学試験および TOEFL により語学能力を含む基礎学力を評価します。小論文では、自然、社会、文化に関する課題について日本語で論述させ、日本語の理解力と文章表現力、思考力等を総合評価します。面接では、日本語による個人面接を行い、一般教科の基礎学力、思考能力、適正、意欲、コミュニケーション能力等を総合評価します。ただし、面接の評価が著しく低い場合は、総得点にかかわらず不合格にすることがあります。

2-(2) 栄養学科

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>栄養学科は、超高齢社会の到来や生活習慣病予防が重要視されている現代社会において、食と健康の相互関係を科学理論によって理解し、未知なる事象の解明に向けて研究する姿勢を身に付け、栄養学を人の健康の維持・増進、病気の予防・治療へと応用し、広く地域社会に貢献できる人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本学科では次の能力を身に付け、かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <p>【教養】 豊かな教養を身に付けている。</p> <p>【倫理観】 人間、健康、社会に関する幅広い知識と論理的な思考力および高い倫理観を身に付けている。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】 多様な文化や価値観を受け容れ、グローバルに活躍できる企画提案力、情報発信力を身に付けている。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている。</p> <p>【専門性1】 食と健康の専門家に必要な資質として、基本的知識・技術を身に付けている。</p> <p>【専門性2】 栄養学に関する専門職業人として必要な高度な専門的応用知識・技術を発揮できる能力を身に付けている。</p> <p>【専門性3】 栄養学の総合的な学びを深め、多職種と連携・協働できるマネジメント力、実践力を身に付けている。</p> <p>【課題発見・解決力】 【生涯学習力】 専門分野における問題発見・解決能力を身に付けている。また、多様な対象者に対して、科学的思考に基づいて適切かつ高度な食・栄養支援を実践するための応用知識や技術を、将来にわたって自ら積み上げていく力を身に付けている。</p>
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>栄養学科は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <p>【導入教育】 1年次に修学基礎に関する共通教育科目により、大学での学びについての理解を深めます。</p> <p>【教養】 1年次から2年次までの共通教育科目の履修を通して、人間や社会を理解するための素地となる豊かな教養を身に付け、専門基礎へ導入を図るための基盤を育成します。基礎的知識の体系的理解を得るため「人文・社会科学要論」「自然科学要論」、専門分野共通の基礎として「健康科学要論」などを設けています。</p> <p>【倫理観1】 共通教育において、高い倫理観を身に付けるため「生命倫理学」などの科目を設けています。</p> <p>【倫理観2】 専門科目における「総合演習及び臨地実習カテゴリー」科目をはじめとして、多くの科目において、倫理観を養い、健康を支援する心を醸成し、豊かな感性を育みます。</p>

	<p>【異文化理解・コミュニケーション力1】 「English Language Program」をはじめとする語学科目でコミュニケーション能力とグローバルな視点を身に付けます。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力2】 「海外研修（保健福祉学）」において異文化理解によるコミュニケーション力を修得します。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や「地域保健福祉演習」等を通じて地域課題を知り、それを解決に導くための理論と企画提案力を修得します。</p> <p>【専門性1】 1年次から2年次までに学部教育「専門基礎分野」科目を履修します。「社会・環境と健康」「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」及び「食べ物と健康」の各カテゴリーの科目の履修を通じて、食と健康の専門家としての基本的な知識や技術について学びます。さらに3～4年次への「専門分野」導入として「基礎栄養学」や「応用栄養学」などの科目について履修をはじめます。</p> <p>【専門性2】 2年次から3年次には「専門分野」科目を主に履修します。専門職業人として必要な高度な専門的応用知識として、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」や「給食経営管理論」などのカテゴリーの各論において、栄養学に関する応用的な知識と方法、病態と栄養に関する応用的な知識と方法、集団の栄養に関する知識と方法、集団の給食に関する知識やサービスマネジメント能力、さらには栄養指導能力を修得します。さらに他の専門職と協働して、リーダーシップを発揮できる力を育成する「チームガバナビリティ演習」を設けています。</p> <p>【専門性3】 3年次から4年次には、専門分野各論の充実した履修とともに、「総合演習」及び「臨地実習」カテゴリー科目の履修を通じて、栄養学の総合的かつ実践的な学びを深めるとともに、学外の関係機関において「臨床栄養学」「公衆栄養学」や「給食運営」などの、実地での履修を通じて、学外の評価を得ながら栄養学に関する実践力を高めます。</p> <p>【課題発見・解決力】 【生涯学習力】 4年次には「卒業研究」を履修し、科学的に探求する態度、論理的に思考する態度、計画的に実行する態度を身に付け、専門分野における問題発見・解決能力、実践能力を育成するとともに、これまで身につけた知識や技術を、将来にわたって自ら積み上げていく力を育成します。</p> <p>【資格取得】 共通教育科目及び学部教育科目の中から履修し、卒業時には栄養士免許並びに管理栄養士国家試験受験資格が取得可能となるほか、食品衛生管理者並びに食品衛生監視員の任用資格の取得が可能となります。また、教職教育科目を修得することで栄養教諭一種免許状が取得可能となります。</p> <p>【教育力】（栄養教諭教職課程） 教職教育科目を履修することで教育の意義や食教育実践に必要な知識と技術を身に付け、教育能力を育成します。</p>
<p>A P (入学者受 入の方針)</p>	<p>【人材育成像及び求める学生像】 栄養学科は、超高齢社会の到来や生活習慣病予防が重要視されている現代社会において、食と健康の相互関係を科学理論によって理解し、未知なる事象の解明に向けて研究する姿勢を身に付け、栄養学を人の健康の維持・増進、病気の予防・治療へと応用し、広く地域社会に貢献できる人材の育成を目指しています。 したがって、求める学生像は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然科学に関心を持ち、食物と人の健康との関係について科学的に理解・

探求しようとする学生

- 栄養学分野の研究に取り組み、これを発展させて社会に還元しようとする意欲のある学生
- 様々な人とコミュニケーションができ、真しな態度と思いやりの気持ちを持って人と向き合える学生

【入学者選抜の基本方針】

栄養学科では、高等学校で主体性をもって学習することにより、幅広い基礎学力と共に「化学」や「生物」などの自然科学の基礎をしっかりと身に付けており、論理的な思考力、豊かな人間性、多様な人々と協働して学ぶ態度、コミュニケーション能力、倫理観などの素養を磨いている学生を選抜するために、一般入試（前期日程、後期日程）および特別入試（推薦入試など）を実施し、複数の入学選抜方式を採用することにより、多様な人材の受け入れを目指しています。

・一般入試（前期日程、後期日程）

前期日程では、大学入試センター試験では5教科7科目又は5教科8科目および個別学力検査では理科1科目（化学基礎・化学又は生物基礎・生物）を、後期日程では、大学入試センター試験では5教科7科目又は5教科8科目を課し、高等学校で得た基礎的な知識や技能、思考力、判断力、表現力等を総合評価します。

・推薦入試

小論文では、自然、社会、文化に関する課題について論述させ、理解力、思考力、文章表現力等を総合評価します。面接では、個人面接を行い、出願書類を参考にし、口頭試問（化学基礎又は生物基礎）も実施し、基礎的な知識に加えて表現力、判断力、学習意欲や多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合評価します。

・帰国生入試

小論文では、自然、社会、文化に関する課題について日本語で論述させ、日本語の理解力と文章表現力、思考力等を総合評価します。面接では、日本語による個人面接を行い、適正、意欲、一般教科の基礎学力、コミュニケーション能力等を総合評価します。ただし、面接の評価が著しく低い場合は、総得点にかかわらず不合格とすることがあります。

・私費外国人留学生特別入試

日本留学試験およびTOEFLにより語学能力を含む基礎学力を評価します。小論文では、自然、社会、文化に関する課題について日本語で論述させ、日本語の理解力と文章表現力、思考力等を総合評価します。面接では、日本語による個人面接を行い、一般教科の基礎学力、思考能力、適正、意欲、コミュニケーション能力等を総合評価します。ただし、面接の評価が著しく低い場合は、総得点にかかわらず不合格にすることがあります。

・編入学試験

学力検査では、英語および総合問題の記述試験を行い、大学初等教育ならびに専門教育に必要な基礎知識や技能、思考力、判断力、表現力などを評価します。面接では、調査書などの書類を参考にし、表現力、判断力、学習意欲や多様な人々と協働して学ぶ態度などを評価します。

2-(3) 保健福祉学科

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>保健福祉学科は、深い教養と豊かな人間性を兼ね備え、福祉的視点と方法に基づいて、子ども、障害者、高齢者等すべての人々の自立と自己実現を支援し、健康と幸福の増進に寄与することのできる人材を育成することを目指しています。社会福祉学専攻では、特に社会における多様な福祉課題に対処する問題解決能力と共感力をもった人材を、また子ども学専攻では、教育的視点と方法を併せ持った、子どもの育ちと学びに関わる人材を育成することを目指しています。</p> <p>したがって、本学科では次の能力を身に付け、かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <p><社会福祉学専攻></p> <p>【教養】 豊かな教養を身に付けている。</p> <p>【倫理観】 人間、健康、社会に関する幅広い知識と論理的な思考力および高い倫理観を身に付けている。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】 多様な文化や価値観を受け容れ、グローバルに活躍できる企画提案力、情報発信力を身に付けている。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている。</p> <p>【専門性1】 社会福祉学と健康科学の知識・理論を身に付けている。</p> <p>【専門性2】 ソーシャルワークの方法および実践的な相談援助技術を身に付けるとともに、多職種と連携できる力を身に付けている。</p> <p>【専門性3】 ケアワークの方法および実践的な生活支援技術を身に付けるとともに、多職種と連携できるマネジメント力、実践力を身に付けている。</p> <p>【課題発見・解決力】【生涯学習力】 自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち、福祉や保育・教育の専門性を修得し、問題解決できる知識や技能を将来にわたって自ら積み上げていく力を身に付けている。</p> <p><子ども学専攻></p> <p>【教養】 豊かな教養を身に付けている。</p> <p>【倫理観】 人間、健康、社会に関する幅広い知識と論理的な思考力および高い倫理観を身に付けている。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】 多様な文化や価値観を受け容れ、グローバルに活躍できる企画提案力、情報発信力を身に付けている。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている。</p> <p>【専門性1】 教育学と発達科学の知識・理論を身に付けている。</p>
-------------------------	--

	<p>【専門性2】 子どもに対して実践的な保育および教育の指導や支援ができる力を身に付けている。</p> <p>【専門性3】 子どもの育ちと学びを家庭や地域との関係の中で捉える力を身に付けている。</p> <p>【課題発見・解決力】【生涯学習力】 自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち、福祉や保育・教育の専門性を修得し、問題解決できる知識や技能を将来にわたって自ら積み上げていく力を身に付けている。</p>
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>保健福祉学科は、社会福祉学専攻と子ども学専攻の2専攻を設置しています。学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、2専攻は次のような教育課程を編成しています。</p> <p><社会福祉学専攻></p> <p>【導入教育】 1年次に修学基礎に関する共通教育科目により、大学での学びについての理解を深めます。</p> <p>【教養】 1年次から2年次までの共通教育科目の履修を通して、人間や社会を理解するための素地となる豊かな教養を身に付け、専門基礎へ導入を図るための基盤を育成します。基礎的知識の体系的理解を得るため「人文社会科学要論」「自然科学要論」、専門分野共通の基礎として「健康科学要論」などを設けています。</p> <p>【倫理観1】 共通教育において、高い倫理観を身に付けるため「生命倫理学」などの科目を設けています。</p> <p>【倫理観2】 専門科目における「生活支援及び自立支援カテゴリー」科目をはじめとして、多くの科目において、倫理観を養い、人を支援する心を醸成し、豊かな感性を育みます。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力1】 「English Language Program」をはじめとする語学科目でコミュニケーション能力とグローバルな視点を身に付けます。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力2】 「海外研修(保健福祉学)」において異文化理解によるコミュニケーション力を修得します。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や「地域保健福祉演習」「地域福祉論」「地域組織論」等を通じて地域課題を知り、それを解決に導くための理論と企画提案力を修得します。</p> <p>【専門性1】 1年次から2年次までに両専攻の「専門共通」科目を履修し、対象者の生活支援に関わる福祉的視点と方法を併せ持った「福祉」専門職の基礎となる知識を修得します。さらに「専門分野」科目として、「生活支援領域」及び「自立支援領域」の各カテゴリー科目の履修を開始し、社会福祉や介護福祉の基礎について履修します。</p> <p>【専門性2】 2年次から3年次には「専門分野」科目を主に履修し、対象者の生活支援に関わる福祉的視点と方法を併せ持った「福祉」の専門職として必要な専門領域の知識と技術を修得します。この履修を通じて、社会福祉学と健康科学の知</p>

識・理論の修得、ソーシャルワークの方法および実践的な相談援助技術、ケアワークの方法および実践的な生活支援技術を身に付けます。さらに他の専門職と協働して、リーダーシップを発揮できる力を育成する「チームガバナビリティ演習」を設けています。

【専門性3】

3年次から4年次には、専門分野各論の充実した履修とともに、「専門ゼミナール」で各自が学習テーマを設定し、既存研究のレビューや演習等を通して課題に取り組むほか「研究ゼミナール（卒業研究）」で既存研究を参考にしながら、適切な方法（調査、実験、観察、事例研究、文献研究）を用いて研究することにより、専門性を高めていきます。

【課題発見・解決力】 【生涯学習力】

4年間を通じて、1年次は「入門ゼミナール」、2年次は「基礎ゼミナール」、3年次は「専門ゼミナール」、4年次は「研究ゼミナール（卒業研究）」を履修します。この履修を通じて、自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち、福祉や保育・教育の専門性を修得し、問題解決できる力を育成します。特に、研究ゼミナールでは、社会福祉学専攻4年間の学業の集大成として、教員のアドバイスを受けつつ、主に「福祉」に関するテーマを選び、卒業研究とします。

【資格取得】

共通教育科目及び学部教育科目の中から履修し、卒業時には社会福祉士及び介護福祉士国家試験受験資格取得が可能となります。

<子ども学専攻>

【導入教育】

1年次に修学基礎に関する共通教育科目により、大学での学びについての理解を深めます。

【教養】

1年次から2年次までの共通教育科目の履修を通して、人間や社会を理解するための素地となる豊かな教養を身に付け、専門基礎へ導入を図るための基盤を育成します。基礎的知識の体系的理解を得るため「人文・社会科学要論」「自然科学要論」、専門分野共通の基礎として「健康科学要論」などを設けています。

【倫理観1】

共通教育において、高い倫理観を身に付けるため「生命倫理学」などの科目を設けています。

【倫理観2】

専門科目における「専門共通カテゴリー」科目において福祉の心について学ぶとともに、多くの保育及び幼児教育系科目において、倫理観を養い、人を支援する心を醸成し、豊かな感性を育みます。

【異文化理解・コミュニケーション力1】

「English Language Program」をはじめとする語学科目でコミュニケーション能力とグローバルな視点を身に付けます。

【異文化理解・コミュニケーション力2】

「海外研修（保健福祉学）」において異文化理解によるコミュニケーション力を修得します。

【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】

「岡山創生学」等の社会連携科目や「地域保健福祉演習」「地域福祉論」等を通じて地域課題を知り、それを解決に導くための理論と企画提案力を修得します。

【専門性1】

1年次から2年次までに両専攻の「専門共通」科目を履修し、子どもの育ちと学びに関わる保育・教育的視点と方法を併せ持った「保育・教育」専門職の

	<p>基礎となる知識を修得します。</p> <p>さらに「専門分野」科目の学びをスタートし、保育や幼児教育の基礎について履修します。</p> <p>【専門性2】</p> <p>2年次から3年次には「専門分野」科目を主に履修します。子どもの育ちと学びに関わる保育・教育的視点と方法を併せ持った「保育・教育」の専門職として必要な専門領域の知識と技術を修得します。この履修を通じて、教育学と発達科学の知識・理論の修得、子どもに対して実践的な保育および教育の指導や支援ができる力、子どもの育ちと学びを家庭や地域との関係の中で捉える力を育成します。</p> <p>【専門性3】</p> <p>3年次から4年次には、専門科目の充実した履修とともに、「専門ゼミナール」で各自が学習テーマを設定し、既存研究のレビューや演習等を通して課題に取り組むほか「研究ゼミナール（卒業研究）」で既存研究を参考にしながら、適切な方法（調査、実験、観察、事例研究、文献研究）を用いて研究することにより、専門性を高めていきます。</p> <p>【課題発見・解決力】 【生涯学習力】</p> <p>4年間を通じて、1年次は「入門ゼミナール」、2年次は「基礎ゼミナール」、3年次は「専門ゼミナール」、4年次は「研究ゼミナール（卒業研究）」を履修します。この履修を通じて、自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち、福祉や保育・教育の専門性を修得し、問題解決できる力を育成します。特に、研究ゼミナールでは、子ども学専攻4年間の学業の集大成として、教員のアドバイスを受けて、主に「保育・教育」に関するテーマを選び、卒業研究とします。</p> <p>【資格取得】</p> <p>共通教育科目及び学部教育科目の中から履修し、卒業時には幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得が可能となります。教職教育科目を履修することで保育・教育の意義や保育・教育実践に必要な知識と技術を身に付け、保育・幼児教育能力を育成します。</p> <p>【教育力】（幼稚園教諭及び保育士養成課程）</p> <p>教職教育科目を履修することで保育・幼児教育の意義や教育実践に必要な知識と技術を身に付け、教育能力を育成します。</p>
<p>A P (入学者受 入の方針)</p>	<p><社会福祉学専攻></p> <p>【人材育成像及び求める学生像】</p> <p>保健福祉学科は、深い教養と豊かな人間性に加えて、多様な社会的課題に対処できる共感力と問題解決能力を兼ね備えた、子ども、障がい者、高齢者等、すべての人々の健康と幸福の増進に寄与できる人材の育成を目指しています。</p> <p>社会福祉学専攻では、対象者の生活支援に関わる福祉的視点と方法を併せ持った人材を育成することを目指します。</p> <p>したがって、社会福祉学専攻において、求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 福祉領域における対象者の自立や成長を促す知識と専門的援助技術の修得に努める学生 ● 福祉的問題に対して科学的な思考力や分析力を養い、問題解決能力を高めようとする学生 ● 豊かな人間性を育み、福祉的支援を求める人々に対して、共感、共生しようとする学生 ● 21世紀の福祉社会や地域社会に貢献する意欲のある学生 <p>【入学者選抜の基本方針】</p> <p>保健福祉学科では、高等学校で主体性をもって学習することにより、幅広い基礎学力と共に、豊かな感性、多様な人々と協働して学ぶことのできる態度、コミュニケーション能力、科学的思考力・分析力、表現力、問題解決能力などを有す</p>

る学生を選抜するために、一般入試（前期日程、後期日程）および特別入試（推薦入試など）を実施し、複数の入学選抜方式を採用することにより、多様な人材の受け入れを目指しています。

・一般入試（前期日程、後期日程）

大学入試センター試験では3教科3科目又は3教科4科目で基礎学力を、また個別学力検査では小論文で自然、社会、文化に関する課題について論述させ、理解力、思考力、文章表現力等を総合評価します。面接では、個人面接を行い、学習意欲、コミュニケーション能力、福祉専門職としての適性等を総合評価します。さらに、福祉活動に貢献する意欲を評価します。

・推薦入試

小論文では、自然、社会、文化に関する課題について論述させ、理解力、思考力、文章表現力等を総合評価します。面接では、個人面接を行い、社会福祉学に関連した知識、学習意欲、コミュニケーション能力、専門職としての適性を、評価するとともに、出願書類も参考にしながら、多様な人々と協働して学ぶ態度や福祉社会や地域社会に貢献する意欲等を総合評価します。

・帰国生入試

小論文では、自然、社会、文化に関する課題について日本語で論述させ、日本語の理解力と文章表現力、思考力等を総合評価します。

面接では、日本語による個人面接を行い、適正、意欲、一般教科の基礎学力、コミュニケーション能力等を総合評価します。ただし、面接の評価が著しく低い場合は、総得点にかかわらず不合格にすることがあります。

・私費外国人留学生特別入試

日本留学試験およびTOEFLにより語学能力を含む基礎学力を評価します。小論文では、自然、社会、文化に関する課題について日本語で論述させ、日本語の理解力と文章表現力、思考力等を総合評価します。面接では、日本語による個人面接を行い、一般教科の基礎学力、思考能力、適正、意欲、コミュニケーション能力等を総合評価します。ただし、面接の評価が著しく低い場合は、総得点にかかわらず不合格にすることがあります。

<子ども学専攻>

【人材育成像及び求める学生像】

保健福祉学科は、深い教養と豊かな人間性に加えて、多様な社会的課題に対処できる共感力と問題解決能力を兼ね備えた、子ども、障がい者、高齢者等、すべての人々の健康と幸福の増進に寄与できる人材の育成を目指しています。

子ども学専攻では、子どもの育ちと学びに関わる保育・教育的視点と方法を併せ持った人材を育成することを目指します。

したがって、子ども学専攻において、求める学生像は次のとおりです。

- 子どもの発達と学びを育む知識と専門的技術の修得に努める学生
- 保育・教育的問題に対して科学的な思考力や分析力を養い、問題解決能力を高めようとする学生
- 豊かな人間性を育み、保育・教育的支援を求める人々に対して、共感、共生しようとする学生
- 21世紀の保育・教育に貢献する意欲のある学生

【入学者選抜の基本方針】

保健福祉学科では、高等学校で主体性をもって学習することにより、幅広い基礎学力と共に、豊かな感性、多様な人々と協働して学ぶことのできる態度、コミュニケーション能力、科学的思考力・分析力、表現力、問題解決能力などを有する学生を選抜するために、一般入試（前期日程、後期日程）および特別入試（推薦入試など）を実施し、複数の入学選抜方式を採用することにより、多様な人材の受け入れを目指しています。

・一般入試（前期日程、後期日程）

大学入試センター試験では3教科3科目又は3教科4科目で基礎学力を、また個別学力検査では小論文で自然、社会、文化に関する課題について論述させ、理解力、思考力、文章表現力等を総合評価します。面接では、個人面接を行い、学習意欲、コミュニケーション能力、保育・教育専門職としての適性等を総合評価します。さらに、保育・教育活動に貢献する意欲を評価します。

・推薦入試

小論文では、自然、社会、文化に関する課題について論述させ、理解力、思考力、文章表現力等を総合評価します。面接では、個人面接を行い、子ども学に関連した知識、学習意欲、コミュニケーション能力、専門職としての適性を、評価するとともに、出願書類も参考にしながら、多様な人々と協働して学ぶ態度や福祉社会や地域社会に貢献する意欲等を総合評価します。

・帰国生入試

小論文では、自然、社会、文化に関する課題について日本語で論述させ、日本語の理解力と文章表現力、思考力等を総合評価します。

面接では、日本語による個人面接を行い、適正、意欲、一般教科の基礎学力、コミュニケーション能力等を総合評価します。ただし、面接の評価が著しく低い場合は、総得点にかかわらず不合格にすることがあります。

・私費外国人留学生入試

日本留学試験およびTOEFLにより語学能力を含む基礎学力を評価します。小論文では、自然、社会、文化に関する課題について日本語で論述させ、日本語の理解力と文章表現力、思考力等を総合評価します。面接では、日本語による個人面接を行い、一般教科の基礎学力、思考能力、適正、意欲、コミュニケーション能力等を総合評価します。ただし、面接の評価が著しく低い場合は、総得点にかかわらず不合格にすることがあります。

3 情報工学部

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>情報工学とは、情報の伝送・認識・処理・利用にかかわるハードウェアとソフトウェアの技術を研究開発するための学問です。情報工学部は、情報技術を活用して、人間及び自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に貢献できる技術者の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本学部では次の能力を身に付け、かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <p>【教養・多面的思考力】 幅広く豊かな教養と多面的な思考力を身に付けている。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力】 論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術英文の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と企画提案力を身に付けている。</p> <p>【専門性1】 数学、自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている。</p> <p>【専門性2】 情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている。</p> <p>【専門性3】 情報工学と関連工学分野の専門知識とそれらを複合的に応用できる能力を身に付けている。</p> <p>【行動力・課題解決力】 知識を総合的に活用することにより、主体性と協調性を持って課題を発見し、技術者倫理を遵守して解決できる能力を身に付けている。</p> <p>【生涯学習力】 工学・技術の発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度を身に付けている。</p>
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>情報工学部は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <p>【導入教育】 修学基礎に関する共通教育科目により、大学での学びについての理解を深めます。</p> <p>【教養・多面的思考力】 自然科学だけでなく人文・社会科学、健康科学、社会連携に関する幅広い共通教育科目により、多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を養成します。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力1】 語学国際に関する共通教育科目により、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を養成します。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力2】 技術英語、卒業研究をはじめとする実験・演習科目により、論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術英文の読解能力を養成します。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目により、地域が果たす役割を考え、地域の課題を発見し、その解決に向けた方策を自ら考え、地域と協働する能力を養います。</p> <p>【専門性1】</p>

	<p>数学、物理および工学の基礎に関する科目により、自然界の法則や工学技術者としての基礎知識を身につけ、工学上の問題解決に活用する基礎能力を養成します。</p> <p>【専門性2】 学部で定めた情報系基礎科目により、情報工学の基礎となる知識と応用力を養成します。</p> <p>【専門性3】 各学科のカリキュラム・ポリシーに準拠した独自の教育課程を用意し、各学科に応じた専門知識と応用力を養成します。</p> <p>【行動力・課題解決力1】 実験・演習科目により、主体性と協調性を持って課題を工学的に解決する能力を涵養します。</p> <p>【行動力・課題解決力2】 1年を通じて卒業研究を行い、研究対象に関する深い知識の獲得や、発見した技術課題を解決に導くため、技術者倫理を遵守した計画立案・遂行能力を養います。</p> <p>【生涯学習力】 体系的なカリキュラムにより4年間で系統的に修得した情報工学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、常に進展する先端的な技術を自主的・継続的に学習し、自身の活動に活かすことができる能力を育成します。</p>
<p>AP (入学者受 入の方針)</p>	<p>【人材育成像及び求める学生像】 情報工学科、情報通信工学科、情報システム工学科、人間情報工学科の3学科で構成されています。</p> <p>情報工学とは、情報の伝送・認識・処理・利用にかかわるハードウェアとソフトウェアの技術を研究開発するための学問です。本学部は、情報技術を活用して、人間及び自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に貢献できる技術者の育成を目指しています。</p> <p>したがって、求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報工学の新しい分野の発展に興味を抱いている学生 ● 人間を取り巻く環境によく適合する情報社会を形づくりに貢献する意欲を持つ学生 ● 新技術・知識の創出に関心を持ち、地域と世界に向けて情報発信したいと考える学生 <p>急速に発展している高度情報化社会を支えるインターネット・コミュニケーション技術を用いて、現状の社会を改革し発展させていく夢を持った学生の挑戦を期待しています。</p>

3-(1) 情報通信工学科

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>情報通信工学科は、日々進歩し続ける情報通信技術（ICT）を支えている情報工学、通信工学、電子工学の3つの学問領域を共通の基盤として、各種情報システムの知能化等に必要となるソフトウェア技術及びシステムの超高速化等に欠かせないハードウェア技術を有し、情報通信技術（ICT）の利用者視点を理解するとともに、グローバルな視野に立って社会に貢献できる人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本学科では次の能力を身に付け、かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <p>【教養・多面的思考力】 幅広く豊かな教養と多面的な思考力を身に付けている。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力】 論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術英文の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点から多面的に物事を捉え先導できる能力を身に付けている。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と企画提案力を身に付けている。</p> <p>【専門性1】 数学、自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている。</p> <p>【専門性2】 情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている。</p> <p>【専門性3】 情報工学の知識を基盤として、情報通信技術（ICT）の根幹をなす通信工学・電子工学に関する幅広い知識と応用力を身に付けている。</p> <p>【行動力・課題解決力】 得られた知識を融合的に活用し、主体性と協調性を持って課題を発見、分析、解決できる能力と、技術者に求められる高い倫理観を身に付けている。</p> <p>【生涯学習力】 情報通信技術（ICT）の発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度を身に付けている。</p>
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>情報通信工学科は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <p>【導入教育】 修学基礎に関する共通教育科目により、大学での学びについての理解を深めます。</p> <p>【教養・多面的思考力】 自然科学だけでなく人文・社会科学、健康科学、社会連携に関する幅広い共通教育科目により、多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を養成します。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力1】 語学国際に関する共通教育科目により、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を養成します。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力2】 「技術英語」、「卒業研究」をはじめとする実験・演習科目により、論理的思考に基づいた、日本語による記述力、技術文書作成能力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術英文の読解能力を養成するとともに、グローバルな視点から多面的に物事を捉え先導できる能力を養成します。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目により、地域が果たす役割を考え、地域の</p>

<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>課題を発見し、その解決に向けた方策を自ら考え、地域と協働する能力を養います。</p> <p>【専門性1】 カテゴリー「学科共通」の授業科目により、自然界の法則や工学技術者としての基礎知識を身につけ、工学上の問題解決に活用する基礎能力を養成します。</p> <p>【専門性2】 カテゴリー「情報工学基礎」の授業科目により、情報工学の基礎となる知識と応用力を養成します。</p> <p>【専門性3】 「情報処理工学」、「情報通信工学」、「情報電子工学」の各カテゴリーをバランスよく修得することにより、それぞれの分野に関する幅広い知識と応用力を養成し、さらにそれらを活用して総合的に課題解決に当たる応用力を養成します。</p> <p>【行動力・課題解決力1】 3年次までの実験・演習科目を通して情報通信技術（ICT）に関して獲得した専門知識を、主体性と協調性をもって活用し、課題を解決に導くための方法を培います。</p> <p>【行動力・課題解決力2】 1年を通じて卒業研究を行い、研究対象に関する深い知識の獲得や、発見した技術課題を解決に導くため、技術者倫理を遵守した計画立案・遂行能力を養います。</p> <p>【生涯学習力】 体系的なカリキュラムにより4年間で系統的に修得した情報工学、通信工学、電子工学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、常に進展する先端的な情報通信技術（ICT）を自主的・継続的に学習し、自身の活動に活かすことができる能力を育成します。</p>
<p>AP (入学者受入の方針)</p>	<p>【人材育成像及び求める学生像】 情報通信工学科は、日々進歩し続ける情報通信技術（ICT）を支えている情報工学、通信工学、電子工学の3つの学問領域を共通の基盤として、各種情報システムの知能化等に必要となるソフトウェア技術及びシステムの超高速化等に欠かせないハードウェア技術を有し、情報通信技術（ICT）の利用者視点を理解するとともに、グローバルな視野に立って社会に貢献できる人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● インターネットを中心とする情報通信技術を学びたい学生 ● コンピュータやネットワークを構成する電子機器やその特性を学びたい学生 ● 情報技術を利用した新しいソフトウェアの創造に興味のある学生 ● 未来の情報通信技術に対する夢や希望を持っている学生 <p>【入学者選抜の基本方針】 情報通信工学科では、一般入試（前期日程、中期日程）、特別入試（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。</p> <p>本学科の専門教育を受けるためには、高等学校で標準的な科目を履修し、特に以下の学力を身に付けていることが望まれます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 情報工学部入学者選抜試験《一般入試》個別学力検査「数学」で指定された範囲の基礎知識を有していること。 2 「物理」に関する基礎知識を有していること。

	<p>各入学者選抜方式の概要は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none">・一般入試（前期日程、中期日程） 基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科6科目）を課すとともに、個別学力検査（数学）では、記述式により解答させ、基礎知識、計算力、論理的な思考力、アイデア及び明快かつ正確な表現力等を総合評価します。中期日程では、個別学力検査に比重を置き、数理的思考力、論理的表現力等を重視します。・推薦入試 書類（調査書及び推薦書）の審査及び個人面接を行い、一般教科（特に数学、物理、英語）の基礎学力、思考能力、適性、意欲、コミュニケーション能力等を総合評価します。・帰国生入試 書類の審査及び日本語による個人面接を行い、一般教科（特に数学、物理）の基礎学力、思考能力、適性、意欲、コミュニケーション能力等を総合評価します。・私費外国人留学生入試 書類（日本留学試験及びTOEFL(iBT)）の審査及び日本語による個人面接を行い、一般教科（特に数学、物理）の基礎学力、思考能力、適性意欲、コミュニケーション能力等を総合評価します。
--	--

3-(2) 情報システム工学科

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>情報システム工学科は、コンピュータの発展に貢献できる情報工学、力学に基礎を置くものづくりのための機械工学、人間と機械やコンピュータを結びつけるインタフェース工学などの学問を身に付け、領域横断型のエンジニアとしてのセンスを持って、新たな工学的価値の創出に積極的に参加できる人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本学科では次の能力を身に付け、かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <p>【教養・多面的思考力】 幅広く豊かな教養と多面的な思考力を身に付けている。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力】 論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術英文の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と企画提案力を身に付けている。</p> <p>【専門性1】 数学、自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている。</p> <p>【専門性2】 情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている。</p> <p>【専門性3-1】 情報工学の知識を基盤として、機械工学、インタフェース工学に関する幅広い知識と応用力を身に付けている。</p> <p>【専門性3-2】 コンピュータや機械をインテリジェント化した機器や実用的なソフトウェアシステム、組込みシステム、機械システムを設計する基礎能力を身に付けている。</p> <p>【行動力・課題解決力】 得られた知識を融合的に活用し、主体性と協調性を持って課題を発見し解決できる能力と、技術者に求められる高い倫理観を身に付けている。</p> <p>【生涯学習力】 工学・技術の発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度を身に付けている。</p>
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>情報システム工学科では、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <p>【導入教育】 修学基礎に関する共通教育科目により、大学での学びについての理解を深めます。</p> <p>【教養・多面的思考力】 自然科学だけでなく人文・社会科学、健康科学、社会連携に関する幅広い共通教育科目により、多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を養成します。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力1】 語学国際に関する共通教育科目により、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を養成します。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力2】 「技術英語演習」、「システム創造プロジェクト」、「卒業研究」により、論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術英文の読解能力を養成します。</p>

<p style="text-align: center;">C P (教育課程 の編成・実 施の方針)</p>	<p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や専門科目により、地域が果たす役割を考え、地域の課題を発見し、その解決に向けた方策を自ら考え、地域と協働する能力を養います。</p> <p>【専門性 1】 カテゴリー「工学基礎」の授業科目により、自然界の法則や工学技術者としての基礎知識を身につけ、工学上の問題解決に活用する基礎能力を養成します。</p> <p>【専門性 2】 カテゴリー「情報工学基礎」の授業科目により、情報工学の基礎となる知識と応用力を養成します。</p> <p>【専門性 3-1】 「ソフトウェアシステム」、「機械システム」、「知的インタフェース」のカテゴリーを設け、情報工学、機械工学、インタフェース工学に関する幅広い知識と応用力、そして機器設計の基礎能力を養成します。</p> <p>【専門性 3-2】 カテゴリー「総合・創造」の科目をはじめ実験・演習科目により講義で学んだ幅広い知識を総合し設計等に应用する能力を養成します。自律型移動ロボットの設計・製作を学ぶ「システム創造プロジェクト」、CAD・CAEを利用した機械設計を学ぶ「機械デザイン演習」、CPUの設計を学ぶ「回路デザイン演習」、人工知能のプログラミングを学ぶ「知能プログラミング演習」等の授業科目を設けています。</p> <p>【行動力・課題解決力 1】 実験・演習科目により、主体性と協調性を持って課題を工学的に解決する能力を涵養します。</p> <p>【行動力・課題解決力 2】 1年を通じて卒業研究を行い、研究対象に関する深い知識の獲得や、発見した技術課題を解決に導くため、技術者倫理を遵守した計画立案・遂行能力を養います。</p> <p>【生涯学習力】 体系的なカリキュラムにより4年間で系統的に修得した情報システム工学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、常に進展する先端的な技術を自主的・継続的に学習し、自身の活動に活かすことができる能力を育成します。</p>
<p style="text-align: center;">A P (入学者受 入の方針)</p>	<p>【人材育成像及び求める学生像】 情報システム工学科は、コンピュータの発展に貢献できる情報工学、力学に基礎を置くものづくりのための機械工学、人間と機械やコンピュータを結び付けるインタフェース工学などの学問を身に付け、領域横断型のエンジニアとしてのセンスを持って、新たな工学的価値の創出に積極的に参加できる人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報技術を積極的に活用したものづくりに興味のある学生 ● 情報工学・機械工学・インタフェース工学を幅広く学びたい学生 ● 人間の生活や社会活動を支援するため、インテリジェント型機器やシステムの設計能力を獲得したい学生 ● 情報工学と他の様々な専門領域を結ぶ領域横断型の新技術を創出したい学生

【入学者選抜の基本方針】

情報システム工学科では、一般入試（前期日程、中期日程）、特別入試（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。

本学科の専門教育を受けるためには、高等学校で標準的な科目を履修し、特に以下の学力を身に付けていることが望まれます。

- 1 情報工学部入学者選抜試験《一般入試》個別学力検査「数学」で指定された範囲の基礎知識を有していること。
- 2 「物理」に関する基礎知識を有していること。

各入学者選抜方式の概要は以下の通りです。

・一般入試（前期日程、中期日程）

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科6科目）を課すとともに、個別学力検査（数学）では、記述式により解答させ、基礎知識、計算力、論理的な思考力、アイデア及び明快かつ正確な表現力等を総合評価します。中期日程では、個別学力検査に比重を置き、数理的思考力、論理的表現力等を重視します。

・推薦入試

書類（調査書及び推薦書）の審査及び個人面接を行い、一般教科（特に数学、物理、英語）の基礎学力、思考能力、適性、意欲、コミュニケーション能力等を総合評価します。

・帰国生入試

書類の審査及び日本語による個人面接を行い、一般教科（特に数学、物理）の基礎学力、思考能力、適性、意欲、コミュニケーション能力等を総合評価します。

・私費外国人留学生入試

書類（日本留学試験及び TOEFL (iBT)）の審査及び日本語による個人面接を行い、一般教科（特に数学、物理）の基礎学力、思考能力、適性、意欲、コミュニケーション能力等を総合評価します。

3-(3) 人間情報工学科

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>人間情報工学科の教育研究のキーワードは「人間中心の設計思想」です。身体とその「うごき」を扱う人間系のサイエンス並びに情報・コミュニケーションと密接に関連する情報系のエンジニアリングを融合的に学び、使う人の様々な特性やニーズの視点に立った「もの」や「サービス」の設計能力を身に付けた人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本学科では次の能力を身に付け、かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <p>【教養・多面的思考力】 幅広く豊かな教養と多面的な思考力を身に付けている。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力】 論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術英文の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と企画提案力を身に付けている。</p> <p>【専門性1】 数学、自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている。</p> <p>【専門性2】 情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている。</p> <p>【専門性3-1】 情報工学の基礎を基盤として、人間工学および機器設計工学に関する幅広い知識と応用力を身に付けている。</p> <p>【専門性3-2】 人体機能と環境変動の特性や人間の動作・行動の解析結果を活かしたシステムおよび人間の感性や生活環境に適合したソフトウェアを設計する基礎能力を身に付けている。</p> <p>【行動力・課題解決力】 得られた知識を融合的に活用し、主体性と協調性を持って課題を発見し解決できる能力と、技術者に求められる高い倫理観を身に付けている。</p> <p>【生涯学習力】 工学・技術の発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度を身に付けている。</p>
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>人間情報工学科は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <p>【導入教育】 修学基礎に関する共通教育科目を配置し、大学での学びについての理解を深めます。</p> <p>【教養・多面的思考力】 自然科学だけでなく人文・社会科学、健康科学、社会連携に関する幅広い共通教育科目を配置し、多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を養成します。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力1】 語学国際に関する共通教育科目により、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を養成します。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力2】 「卒業研究」をはじめとする実験・演習科目を配置することで、論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術英文の読解能力を養成します。</p>

<p style="text-align: center;">C P (教育課程 の編成・実 施の方針)</p>	<p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や、地域が果たす役割を考え、地域の課題を発見し、その解決に向けた方策を自ら考え、地域と協働する能力を養います。</p> <p>【専門性 1】 「数学系」のカテゴリーを設け、数学、物理および工学の基礎に関する科目を配置することで、自然界の法則や工学技術者としての基礎知識を身につけ、工学上の問題解決に活用する基礎能力を養成します。</p> <p>【専門性 2】 「情報系」のカテゴリーを設け、情報工学基礎の授業科目を配置することで、情報工学の基礎となる知識と応用力を養成します。</p> <p>【専門性 3-1】 カテゴリー「情報系」に情報工学の応用および電気・電子工学の基礎に関する授業科目を配置するとともに、「生体機能系」及び「機器設計系」のカテゴリーを設け、これらに関する基礎から応用までの授業科目を配置することで、情報工学、人間工学および機器設計工学に関する幅広い知識と応用力を養成します。</p> <p>【専門性 3-2】 「実験・演習」のカテゴリーを設け、基本から応用に至るスキルを修得する授業科目を配置するとともに、分野横断的な実験と考察を必要とする授業科目を配置することで、人間の生活環境の変化に適合したシステムの設計基礎能力を養成します。</p> <p>【行動力・課題解決力 1】 実験・演習科目の配置により、主体性と協調性を持って課題を工学的に解決する能力を涵養します。</p> <p>【行動力・課題解決力 2】 1年を通じて卒業研究を行い、研究対象に関する深い知識の獲得や、発見した技術課題を解決に導くため、技術者倫理を遵守した計画立案・遂行能力を養います。</p> <p>【生涯学習力】 体系的なカリキュラムにより4年間で系統的に修得した人間情報工学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、常に進展する先端的な技術を自主的・継続的に学習し、自身の活動に活かすことができる能力を育成します。</p>
<p style="text-align: center;">A P (入学者受 入の方針)</p>	<p>【人材育成像及び求める学生像】 人間情報工学科の教育研究のキーワードは「人間中心の設計思想」です。身体とその「うごき」を扱う人間系のサイエンス並びに情報・コミュニケーションと密接に関連する情報系のエンジニアリングを融合的に学び、使う人の様々な特性やニーズの視点に立った「もの」や「サービス」の設計能力を身に付けた人材の育成を目指しています。 したがって、求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人体機能の巧みさを工学の視点から解明したい学生 ● 人体機能と人間環境の調和を考慮した「もの」や「サービス」を開発したい学生 ● 情報工学の視点で地域社会の発展や国際社会との連携協力に参加し、貢献したい学生 <p>【入学者選抜の基本方針】 人間情報工学科では、一般入試（前期日程、中期日程）、特別入試（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。 本学科の専門教育を受けるためには、高等学校で標準的な科目を履修し、特に</p>

<p style="text-align: center;">A P (入学者受 入の方針)</p>	<p>以下の学力を身に付けていることが望まれます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 情報工学部入学者選抜試験《一般入試》個別学力検査「数学」で指定された範囲の基礎知識を有していること。 2 「物理」に関する基礎知識を有していること。 <p>各入学者選抜方式の概要は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試（前期日程、中期日程） 基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（4教科6科目）を課すとともに、個別学力検査（数学）では、記述式により解答させ、基礎知識、計算力、論理的な思考力、アイデア及び明快かつ正確な表現力等を総合評価します。中期日程では、個別学力検査に比重を置き、数理的思考力、論理的表現力等を重視します。 ・推薦入試 書類（調査書及び推薦書）の審査及び個人面接を行い、一般教科（特に数学、物理、英語）の基礎学力、思考能力、適性、意欲、コミュニケーション能力等を総合評価します。 ・帰国生入試 書類の審査及び日本語による個人面接を行い、一般教科（特に数学、物理）の基礎学力、思考能力、適性、意欲、コミュニケーション能力等を総合評価します。 ・私費外国人留学生入試 書類（日本留学試験及び TOEFL (iBT)）の審査及び日本語による個人面接を行い、一般教科（特に数学、物理）の基礎学力、思考能力、適性、意欲、コミュニケーション能力等を総合評価します。
--	--

4 デザイン学部

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>デザイン学部では、本学の理念に沿う実学の体現者として、豊かな教養と深い専門性を備え、新しい時代を切り拓く人材の育成を通じて、グローバルな視点で地域や社会の学術文化の進展及び産業の振興に貢献できる人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本学部では次の能力を身に付け、かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <p>【教養・多面的思考力】 人間性を尊ぶ姿勢を学び、社会人としての基礎的教養を身につけ、幅広い視点の獲得により多面的に思考できる。</p> <p>【倫理観】 デザイナーに求められる高い倫理観を身に付けている。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力】 日本語による記述力、口頭発表力、企画提案力、作品等を通じたコミュニケーション力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている。</p> <p>【専門性1】 デザイン基礎に関する知識・技能とそれらに応用できる能力を身に付けている。</p> <p>【専門性2】 領域デザインに求められる知識・技能を有し、それらを柔軟に活用することができる。</p> <p>【専門性3】 領域デザインに求められる知識・技能を有し、かつ実社会で自律的に活用するため、学術文化や産業の振興を念頭に、社会の課題に取り組む研究能力や実務能力を有している。</p> <p>【行動力・課題解決力】 持続的な発展・開発、少子高齢化への対策などの社会の要請に対し、デザインによる新たな視点を活かし、実効性を伴う問題提起ならびに問題解決策の提案ができる。</p> <p>【生涯学習力】 地域の文化や技術の持続的発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度を身に付け、自律的に活動できる。</p>
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>デザイン学部は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <p>【導入教育】 修学基礎に関する共通教育科目により、大学での学びについての理解を深めます。</p> <p>【教養・多面的思考力】 自然科学、人文・社会科学、健康科学及び社会連携に関する幅広い共通教育科目により、多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を養成します。また美術の歴史について、デザイン分野の基礎として学びます。さらに社会連携に関する共通教育科目では、地域社会との協働意識を養います。</p> <p>【倫理観】 フレッシュマンセミナーを通じて、現場のデザイナーによる講義に触れることで、職業人としての良識及び倫理観を培います。また、専門教育において知的財産権などの講義により、デザイナーに求められる規範意識を養います。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力1】</p>

<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>語学国際に関する共通教育科目により、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を養います。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力2】 専門教育における各演習科目のプレゼンテーションや国際交流、卒業研究の発表会を通じて、日本語による記述力、口頭発表力、企画提案力、作品等を通じたコミュニケーション力を養います。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や専門科目により、地域が果たす役割を考え、地域の課題を発見し、その解決に向けた方策を自ら考え、専門的知識を活用して、地域と協働する能力を養います。</p> <p>【専門性1】 1年次は、「学部基礎教育科目」や「学科専門教育科目」でデザイン史や色彩学などのデザイン理論やデザイン基礎演習を幅広く学び、デザイン基礎に関する知識・技能を養います。</p> <p>【専門性2】 2年次からは両学科とも領域に分かれて、新たな文化価値を創造するために必要な学科専門教育科目及び講義と演習が体系化された領域専門教育科目を履修します。学科専門教育科目では、各自の志向に基づき、自主的に選択できる演習科目を中心として編成しています。企画提案力に必要な発想から情報分析、課題解決までのプロセスを身に付けるために、領域専門教育科目は複数の専門領域が用意されており、横断的に学ぶことができるよう編成しています。</p> <p>【専門性3】 自ら発見した課題解決のために、1年間を通じて卒業研究を履修します。</p> <p>【行動力・課題解決力】 演習や正課外において、各種コンペ、地域ならびに国際交流の機会を活かし、作品発表やワークショップにチャレンジするとともに、学外者から与えられた課題や自ら発見した課題に取り組み、課題解決力を養います。</p> <p>【生涯学習力】 体系的なカリキュラムにより4年間で系統的に修得したデザイン学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、常に進展する技術やデザインの価値を見極め、自主的・継続的に学習し、自身の活動に活かすことができる能力・態度を養います。</p>
<p>AP (入学者受入の方針)</p>	<p>【人材育成像及び求める学生像】 デザイン学部は、情報化、グローバル化など刻々と変化する社会の動向を的確に把握することにより、自ら課題を発見し、豊かな生活文化の形成に必要な専門力とマネジメント能力を活かして、デザインによる解決を実行し、広く社会に貢献できる人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デザイナーあるいは関連の職種につく明確な意志をもち、そのための努力を惜しまず、挑戦し続けることのできる学生 ● 様々な科学を学ぶことによって、人間・自然・社会の関係性を主体的に分析・考察し、課題に取り組む力を身に付け、デザインによる解決にいかしたい学生 ● 自ら発見した課題をデザインによって表現し、解決するために、知性と感性の融合によるデザイン発想力・技術力・表現力を身に付けたい学生 ● 社会における課題を洞察し、新たな生活・文化の価値を創造するため、デザインによる解決策を考案し企画提案する力を身に付けたい学生 ● 日本語による記述力、口頭発表力、企画提案力、作品等を通じたコミュニケーション力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けたい学生

4-(1) デザイン工学科

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>デザイン工学科では、共通教育に加えて、製品・情報デザイン領域あるいは建築・都市デザイン領域での専門教育により、これらの関係性を知識・技能の修得を通じて学ぶことで、地域社会・国際社会の持続的発展のために、その能力を長きにわたって発揮できる、デザイナー・建築家等の実務担当者の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本学科では次の能力を身に付け、かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <p>【教養・多面的思考力】 人間性を尊ぶ姿勢を学び、社会人としての基礎的教養を身につけ、幅広い視点の獲得により多面的に思考できる。</p> <p>【倫理観】 デザイナーに求められる高い倫理観を身に付けている。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力】 日本語による記述力、口頭発表力、企画提案力、製品や作品提案等を通じたコミュニケーション力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている。</p> <p>【専門性1】 デザイン基礎に関する知識・技能とそれらを応用できる能力を身に付けている。</p> <p>【専門性2】 製品・情報デザイン領域及び建築・都市デザイン領域に求められる知識・技能を有し、それらを柔軟に活用することができる。</p> <p>【専門性3】 製品・情報デザイン領域及び建築・都市デザイン領域に求められる知識・技能を活用し、学術文化や産業の振興を念頭に、社会の課題に取り組む研究能力や実務能力を有している。</p> <p>【行動力・課題解決力】 持続的な発展・開発、少子高齢化への対策などの社会の要請に対し、デザインによる新たな視点やイノベーション対応能力を活かし、実効性を伴う問題提起ならびに問題解決策の提案ができる。</p> <p>【生涯学習力】 地域の文化や技術の持続的発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度を身に付け、自律的に活動できる。</p>
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>デザイン工学科では、入学者受入方針に沿い、かつ学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような専門教育課程を編成しています。</p> <p>【導入教育】 修学基礎に関する共通教育科目により、大学での学びについての理解を深めます。</p> <p>【教養・多面的思考力】 自然科学、人文・社会科学、健康科学及び社会連携に関する幅広い共通教育科目により、多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を養成します。また、統計学の基礎について、数的データ処理の基礎として学びます。さらに社会連携に関する共通教育科目では、地域社会との協働意識を養います。</p> <p>【倫理観】 フレッシュマンセミナーを通じて、現場のデザイナーによる講義に触れることで、職業人としての良識及び倫理観を培います。また、専門教育において知的財産権などの講義により、デザイナーに求められる規範意識を養います。</p>

<p>CP (教育課程 の編成・実 施の方針)</p>	<p>【異文化理解・コミュニケーション力1】 語学国際に関する共通教育科目により、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を養います。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力2】 専門教育における各演習科目のプレゼンテーションや、海外協定校とのワークショップ及び卒業研究の発表会を通じて、日本語による記述力、口頭発表力、企画提案力、作品等を通じたコミュニケーション力を養います。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や専門科目により、地域が果たす役割を考え、地域の課題を発見し、その解決に向けた方策を自ら考え、専門的知識を活用して、地域と協働する能力を養います。</p> <p>【専門性1】 1年次は、「学部基礎教育科目」や「学科専門教育科目」でデザイン史や色彩学などのデザイン理論やデザイン基礎演習を幅広く学び、デザイン基礎に関する知識・技能を養います。なお、デザイン工学科生に求められる、立体や空間表現力の基礎として、モデリングやデザイン・ドローイングを学びます。</p> <p>【専門性2】 2年次より「領域専門教育科目」が加わり、学生は「製品・情報デザイン領域」あるいは「建築・都市デザイン領域」何れかの専門科目を新たに履修します。これにより、各領域の学びを深化させ、デザイン基礎技能、発想力、問題発見力、問題解決力としての企画・提案力等の獲得を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品・情報デザイン領域では、プロダクトデザインや、エクスペリエンスデザイン、情報デザインの講義・演習の横断的に選択出来るよう科目を編制し、招来のキャリアプランへの判断が早期かつ柔軟にできるようにしています。 ・建築・都市デザイン領域では、卒業時に国家資格である一級・二級建築士、木造建築士の受験資格を得るのに必要な国土交通省指定の科目を準備し(ただし受験資格によっては実務経験も要求される)、設計製図・建築計画・環境工学・建築設備・構造力学から法規や都市計画まで幅広く学習します。 <p>3年次以降は、企業や官公庁でのインターンシップやデザイン実習を通じて、実社会での業務経験の機会を得るように努める一方で、卒業生および社会で活躍するデザイン専門家を招聘した特別講義等により、職業としてのデザインの実際に接することに努めます。また各領域においては、ポートフォリオの作成をうながし、進路に応じたアドバイスを受けます。</p> <p>【専門性3】 4年次では、各領域で学んだ専門知識と技能を活かし、自ら発見した課題解決のために1年間を費やし「卒業研究」を履修します。卒業研究では、学科全教員の参加する中間・最終の2度の発表とその際の指導を経て、卒業作品ならびに卒業論文もしくは卒業研究ノートを作成します。作品は展覧会形式にて学外で発表され、自己の研究成果を社会に発信し、評価を得る機会としています。</p> <p>【行動力・課題解決力】 演習や正課外において、各種コンペ、地域ならびに国際交流の機会を活かし、作品発表やワークショップにチャレンジするとともに、学外者から与えられた課題や自ら発見した課題に取り組み、課題解決力を養います。</p> <p>【生涯学習力】 体系的なカリキュラムにより4年間で系統的に修得したデザイン学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、常に進展する技術やデザインの価値を見極め、自主的・継続的に学習し、自身の活動に活かすことができる能力・態度を養います。また「インターンシップ」や卒業生および社会で活躍するデザイン専門家を招聘した特別講義等により、継続的な研鑽の必要性を学びます。</p>
---	---

<p>AP (入学者受 入の方針)</p>	<p>【人材育成像及び求める学生像】 デザイン工学科は、工業製品のデザイン、情報デザイン、建築設計あるいは都市計画などの領域において、地域社会・国際社会を問わず、その知識・技能を遺憾なく発揮できるデザイナー・建築家の育成を目指しています。 したがって、求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自己の将来像、職業人像をプロダクトデザイナー、情報デザイナーあるいは関連の職種に求め、そのための自己研鑽により、自己実現に向けて挑戦し続けることのできる学生 ● 自己の将来像、職業人像を建築家あるいは関連の職種に求め、そのための自己研鑽により、自己実現に向け挑戦し続けることのできる学生 ● 諸科学の知識や技能の学びを通じて、知性と感性を融合させ、デザイン工学諸分野に必要なデザイン発想力やコンピュータ等による製品、情報、空間等の造形技術力ならびに表現力を身に付けたい学生 ● 社会における課題を洞察し、新たな生活・文化の価値を創造するため、製品デザイン、情報デザイン、建築デザイン等による解決策を考案し、企画提案力及び企画展開のマネジメント力を身に付けたい学生 ● 日本語による記述力、口頭発表力、企画提案力、作品等を通じたコミュニケーション能力、ならびに外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付け、多様な人々との協働により地域や国際社会に貢献したいと考える学生 <p>【入学者選抜の基本方針】 デザイン工学科では、一般入試（前期日程）、特別入試（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。 各入学者選抜方式の概要は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試（前期日程） <p>大学入試センター試験および、個別学力検査として実技試験（鉛筆デッサン）を課します。 大学入試センター試験では、「外国語」を必須とし、その他の科目から2又は3（理科の「基礎を付した科目」から2及び理科以外の教科の科目から1）科目を課すとともに、実技試験では、デザイン工学分野に必要な、観察力、構成力、描写力を総合評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試 <p>実技試験（鉛筆デッサン）及び面接（書類を含む）を実施します。 実技では、デザイン工学分野に必要な、観察力、構成力、描写力を総合評価します。面接では、個人面接を行い、自然科学や社会科学、歴史などの幅広い学問に主体的に取り組めるよう、出願書類を参考に、高等学校あるいは中等学校で得た基礎学力、志望動機、学習意欲、デザインに対する適性、コミュニケーション能力等を、総合評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰国生入試 <p>書類審査、実技試験（鉛筆デッサン）及び面接（書類を含む）を実施します。 書類審査では、自然科学や社会科学、歴史などの幅広い学問に主体的に取り組めるよう、日本の高等学校で修得される程度の基礎学力について評価します。 実技では、デザイン工学分野に必要な、観察力、構成力、描写力を総合評価します。面接では、日本語による個人面接を行い、志望動機、学習意欲、デザインに対する適性、コミュニケーション能力等を、総合評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私費外国人留学生入試 <p>出願時に書類審査を行い、実技試験（鉛筆デッサン）及び面接（書類を含む）を実施します。</p>
-------------------------------	---

A P (入学者受 入の方針)	<p>書類審査では、自然科学や社会科学、歴史などの幅広い学問に主体的に取り組めるよう、日本語および基礎学力を日本留学試験成績および TOEFL あるいは TOEFL iBT の得点により評価します。</p> <p>実技試験では、デザイン工学分野に必要な、観察力、構成力、描写力を総合評価します。面接では、日本語による個人面接を行い、出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、デザインに対する適性、コミュニケーション能力等を、総合評価します。</p>
-----------------------	--

4-(2) 造形デザイン学科

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>造形デザイン学科では、共通教育に加えて、ビジュアルデザイン領域あるいは造形デザイン領域における専門教育により、これらの関係性を知識・技能の修得を通じて学ぶことで、地域社会・国際社会の持続的発展のために、その能力を長きにわたって発揮できる、デザイナー・造形スペシャリスト等の実務担当者の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本学科では次の能力を身に付け、かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <p>【教養・多面的思考力】 人間性を尊ぶ姿勢を学び、社会人としての基礎的教養を身につけ、幅広い視点の獲得により多面的に思考できる。</p> <p>【倫理観】 デザイナーに求められる高い倫理観を身に付けている。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力】 日本語による記述力、口頭発表力、企画提案力、作品提案等を通じたコミュニケーション力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている。</p> <p>【専門性1】 デザイン基礎に関する知識・技能とそれらを応用できる能力を身に付けている。</p> <p>【専門性2】 ビジュアルデザイン領域及び造形デザイン領域に求められる知識・技能を有し、それらを柔軟に活用することができる。</p> <p>【専門性3】 ビジュアルデザイン領域及び造形デザイン領域に求められる知識・技能を活用し、学術文化や産業の振興を念頭に、社会の課題に取り組む研究能力や実務能力を有している。</p> <p>【行動力・課題解決力】 持続的な発展・開発、少子高齢化への対策などの社会の要請に対し、デザインによる新たな視点や文化的価値の創造力を活かし、実効性を伴う問題提起ならびに問題解決策の提案ができる。</p> <p>【生涯学習力】 地域の文化や技術の持続的発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度を身に付け、自律的に活動できる。</p>
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>造形デザイン学科では、入学者受入方針に沿い、かつ学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような専門教育課程を編成しています。</p> <p>【導入教育】 修学基礎に関する共通教育科目により、大学での学びについての理解を深めます。</p> <p>【教養・多面的思考力】 自然科学、人文・社会科学、健康科学及び社会連携に関する幅広い共通教育科目により、多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を養成します。また、日本語の文章作法について、ストーリーづくりの基礎として学びます。さらに社会連携に関する共通教育科目では、地域社会との協働意識を養います。</p> <p>【倫理観】 フレッシュマンセミナーを通じて、現場のデザイナーによる講義に触れるこ</p>

<p>CP (教育課程 の編成・実 施の方針)</p>	<p>とで、職業人としての良識及び倫理観を培います。また、専門教育において知的財産権などの講義により、デザイナーに求められる規範意識を養います。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力1】 語学国際に関する共通教育科目により、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を養います。</p> <p>【異文化理解・コミュニケーション力2】 専門教育における各演習科目のプレゼンテーションや海外協定校とのワークショップ及び卒業研究の発表会を通じて、日本語による記述力、口頭発表力、企画提案力、作品等を通じたコミュニケーション力を養います。</p> <p>【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や専門科目により、地域が果たす役割を考え、地域の課題を発見し、その解決に向けた方策を自ら考え、専門的知識を活用して、地域と協働する能力を養います。</p> <p>【専門性1】 1年次は、「学部基礎教育科目」や「学科専門教育科目」でデザイン史や色彩学などのデザイン理論やデザイン基礎演習を幅広く学び、デザイン基礎に関する知識・技能を養います。なお、造形デザイン学科生に求められる、造形力・構成力・コミュニケーション力の基礎として、平面構成、立体構成、空間造形ならびにメディアコミュニケーションについて学びます。</p> <p>【専門性2】 2年次より「領域専門教育科目」が加わり、学生は「ビジュアルデザイン領域」あるいは「造形デザイン領域」何れかの専門科目を新たに履修します。これにより、各領域の学びを深化させ、デザイン基礎技能、発想力、問題発見力、問題解決力としての企画・提案力等の獲得を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジュアルデザイン領域では、グラフィック・写真・映像・CG・Webなど様々な分野を組み合わせ社会のニーズを意識しながらビジュアルデザインを学修すると共に、デザインビジネス展開のための企画提案を行います。 ・造形デザイン領域では、木工・陶磁・染織・印刷などの伝統文化に新しい発想を組み入れ、芸術性の高い造形の可能性を探ってゆくと共に、立体・空間・メディア等の特性を活かし生活文化に貢献できる企画提案を行います。 <p>3年次以降は、領域専門科目の履修を中心に、より深くデザイン専門知識や技能を修得していきます。また、デザイン事務所や企業等での実務経験の機会となる「インターンシップ」や卒業生および社会で活躍するデザイン専門家を招聘した特別講義等により、キャリア形成に対する意識を高め卒業後の進路を明確化させ、実社会に通用する力を養ってゆきます。また各領域においては、ポートフォリオの作成をうながし、進路に応じたアドバイスを受けます。</p> <p>【専門性3】 4年次では、各領域で学んだ専門知識と技能を活かし、自ら発見した課題解決のために1年間を費やし「卒業研究」を履修します。卒業研究では、学科全教員の参加する中間・最終の2度の発表と指導を経て、卒業作品ならびに卒業研究ノートを作成します。作品は展覧会形式にて学外で発表され、自己の研究成果を社会に発信し、評価を得る機会としています。</p> <p>【行動力・課題解決力】 演習や正課外において、各種コンペ、地域ならびに国際交流の機会を活かし、作品発表やワークショップにチャレンジするとともに、学外者から与えられた課題や自ら発見した課題に取り組み、課題解決力を養います。</p> <p>【生涯学習力】 体系的なカリキュラムにより4年間で系統的に修得したデザイン学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として、常に進展する技術やデザインの価値を見極め、自主的・継続的に学習し、自身の活動に活かすことができる能力・</p>
---	---

	<p>態度を養います。また「インターンシップ」や卒業生および社会で活躍するデザイン専門家を招聘した特別講義等により、継続的な研鑽の必要性を学びます。</p>
<p>AP (入学者受 入の方針)</p>	<p>【人材育成像及び求める学生像】 造形デザイン学科は、デザインによって地域特性を考慮した問題及びグローバルな視点で課題解決に取組み、人間・社会・自然の関係性に十分配慮し、社会に貢献できるデザイナー及び造形のスペシャリストの育成を目指しています。したがって、求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自己の将来像、職業人像をビジュアルデザイナー、造形デザイナーあるいは関連の職種に求め、そのための自己研鑽により、自己実現に向けて挑戦し続けることのできる学生 ● 豊かな人間性と美を見極める感性、柔軟で論理的な思考力及び社会に企画提案できるデザインマネジメント力を身に付けたいと考える学生 ● 諸科学の知識や技能の学びを通じて、知性と感性を融合させ、造形デザイン諸分野に必要なデザイン発想力や平面、映像、立体、空間等の造形技術力ならびに表現力を身に付けたい学生 ● 社会における課題を洞察し、ビジュアルコミュニケーションデザインを解決策として考案し、企画提案力及び企画展開のマネジメント力を身に付けたい学生、または、アートとクラフトの融合分野において解決策を考案し、企画提案力及び企画展開のマネジメント力を身に付け、生活文化の価値を創造したいと考える学生 ● 日本語による記述力、口頭発表力、企画提案力、作品等を通じたコミュニケーション能力、ならびに外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付け、多様な人々との協働により地域や国際社会に貢献したいと考える学生 <p>【入学者選抜の基本方針】 造形デザイン学科では、一般入試（前期日程）、特別入試（推薦入試など）を実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています。</p> <p>各入学者選抜方式の概要は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試（前期日程） 大学入試センター試験および、個別学力検査として実技試験（鉛筆デッサン）を課します。 大学入試センター試験では、「外国語」「国語」等の基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（3科目3教科）を課すとともに、実技試験では、造形デザイン分野に必要な、観察力、構成力、描写力を総合評価します。 ・推薦入試 実技試験（鉛筆デッサン）及び面接（書類を含む）を実施します。 実技試験では、造形デザイン分野に必要な、観察力、構成力、描写力を総合評価します。面接では、個人面接を行い、自然科学や社会科学、歴史などの幅広い学問に主体的に取り組めるよう、出願書類を参考に、高等学校あるいは中等学校で得た基礎学力、志望動機、学習意欲、デザインに対する適性、コミュニケーション能力等を、総合評価します。 ・帰国生入試 書類審査、実技試験（鉛筆デッサン）及び面接（書類を含む）を実施します。 書類審査では、自然科学や社会科学、歴史などの幅広い学問に主体的に取り組めるよう、日本の高等学校で修得される程度の基礎学力について評価します。実技では、造形デザイン分野に必要な、観察力、構成力、描写力を総合評価します。面接では、日本語による個人面接を行い、志望動機、学習意欲、デザインに対する適性、コミュニケーション能力等を、総合評価します。

<p>AP (入学者受 入の方針)</p>	<p>・私費外国人留学生入試 出願時に書類審査を行い、実技試験（鉛筆デッサン）及び面接（書類を含む）を実施します。書類審査では、自然科学や社会科学、歴史などの幅広い学問に主体的に取り組めるよう、日本語および基礎学力を日本留学試験成績および TOEFL あるいは TOEFL iBT の得点により評価します。 実技試験では、造形デザイン分野に必要な、観察力、構成力、描写力を総合評価します。面接では、日本語による個人面接を行い、出願書類を参考に、志望動機、学習意欲、デザインに対する適性、コミュニケーション能力等を、総合評価します。</p>
-------------------------------	---

B 大学院ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー

- ※ 表における表記は次のとおり。
 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）：D P
 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）：C P
 アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）：A P

1 保健福祉学研究科

<p>D P (学位授与の方針)</p>	<p>保健福祉学研究科は、保健・医療・福祉分野における問題点を提起してそれを解決し得る研究能力を持つとともに、専門職としての高度な知識・技術を身に付けることにより、健康で夢の持てる地域社会の実現に貢献し得る人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本研究科では次の能力を身に付け、かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保健・医療・福祉分野における問題点を発見し、それを理論的に解決できる研究能力を身に付けている。 ● 高度な知識と技術を備え、豊かな地域社会の実現に向けて指導者、実践者として活躍できる能力を身に付けている。 ● グローバルな視野を持った専門職として国際貢献できる能力を身に付けている。
<p>C P (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>保健福祉学研究科は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力とグローバルな視野並びに高度の専門性を要する職業等に必要なる能力を養うための博士前期課程と、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識並びにグローバルな視野を養うことを目的とした博士後期課程（保健福祉科学専攻）を置いています。 2 博士前期課程は、看護学の理論と技術を修得する組織的な教育研究を行い、看護技術やケアシステムに関連した諸問題を解決できる人材を育成する看護学専攻、栄養学の理論と技術を修得する組織的な教育研究を行い、食品の機能や臨床栄養などの人の健康に関連した栄養学的な諸問題を解決できる人材を育成する栄養学専攻及び保健福祉学の理論と技術を修得する組織的な教育研究を行い、保健福祉に関連した臨床や政策の諸問題を解決できる人材を養成する保健福祉学専攻の3専攻を置いています。 3 博士後期課程は保健福祉科学専攻からなり、看護・栄養・福祉のそれぞれの分野において高度の見識と、より専門的な視点から科学的にアプローチする研究を行うための3大講座を置いています。 4 カリキュラムは、それぞれの専攻のカリキュラム・ポリシーに従って、講義・演習科目と特別研究から編成しています。
<p>A P (入学者受入の方針)</p>	<p>保健福祉学研究科が求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保健・医療・福祉分野における基本的な問題から応用的な問題を解決し得る国際的な研究者を目指す学生 ● 豊かな地域社会の実現に向け、官・民・産を問わず教育、研究機関で活躍する教育者、研究者を目指す学生 ● 高度の知識・技術を身に付けた専門職として、社会において指導的な実践者を目指す学生

1-(1) 看護学専攻（博士前期課程）

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>看護学専攻は、学際的で高い看護の専門的知識と基礎的な研究能力を活かして、保健医療福祉分野における課題を解決し、国内外の看護における実践・教育・研究の場で社会のニーズに応え、貢献できる人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本専攻では次の能力を身に付け、かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ヒューマン・ケアリングと科学的根拠に基づく看護実践力を身に付けている。 ● 看護における現象を科学的根拠に基づいて説明し、課題を提起する能力を身に付けている。 ● 国際的・研究的視点を持ち看護の質向上に向けて貢献できる能力を身に付けている。 ● 看護のリーダーやスペシャリストとして、国内外で活躍できる能力を身に付けている。
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>看護学専攻は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護学の教育・研究に必要な基礎的理論や研究技法及び外国文献の読解力を学修する「看護学専攻共通科目」と「基礎看護学」「発達看護学」「広域看護学」の各専門分野から構成しています。 2 幅広く保健医療福祉に共通する3専攻共通科目では、保健福祉学特論、災害援助特論・演習や国際コミュニケーション特論等を履修できます。 3 「基礎看護学」では、生命科学特論や基礎看護学特論等の講義・演習を通して、看護のエビデンス検証や確立を志向します。 4 「発達看護学」では、小児・母性・成人・老年期のライフステージ特有の看護に関する課題を探求し、人々の健康と豊かな人生を支援できる看護の方法論やシステム構築に貢献することを目指しています。 5 「広域看護学」では、公衆衛生看護学・在宅看護学・国際保健看護特論・精神保健看護学特論を履修し、生涯を通じた人々の心とからだの健康を学際的に探究し、グローバルな視点から根拠に基づく課題解決を図り、看護の質向上にむけて先導できることを目指しています。 6 「広域看護学」では、修士論文に加えて保健師国家試験受験資格を満たす科目を開講し、高度な実践力とリーダーシップを発揮して社会に貢献できる保健師を養成します。
<p>AP (入学者受入の方針)</p>	<p>看護学専攻が求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護を科学的、論理的に考究し、ヒューマン・ケアリングと科学的根拠に基づく看護の実践力を身に付けたい学生 ● 専門分野における知識や技術を高めるとともに研究開発能力を身に付けたい学生 ● 新しいケアの方法やシステム開発を目指す学生 ● グローバルな視点で看護実践と研究を志向するとともに国際貢献をしたい学生 ● 保健師として明確な目的意識を持ち、将来地域においてリーダーとして活躍したい学生

1-(2) 栄養学専攻（博士前期課程）

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>栄養学専攻は、食品の機能や臨床栄養などの人の健康に関連した栄養学的な諸問題を解決できる優れた専門性を備えるとともに、豊かな創造力と問題解決能力を身に付け、それぞれの領域で活躍できる人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本専攻では次の能力を身に付け、かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 栄養学領域における理論と技術を身に付けている。 ● 人の健康に関連した栄養学的な諸問題を解決するための専門性や研究能力を身に付けている。 ● 栄養学領域における専門的な技術や知識を地域・世界に向けて発信できる能力を身に付けている。 ● 栄養士のリーダーとして、国内外で活躍できる能力を身に付けている。
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>栄養学専攻は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 栄養情報学講座，食デザイン学講座，基礎栄養学講座及び食品栄養学講座を置き，教育研究を実施します。 2 栄養情報学講座では，情報解析技術を活用したデータ解析法と新しい理論構築を基に，近年急速に問題となってきた肥満，糖尿病，脂質異常症をはじめとする生活習慣病の予防と治療を目指した教育・研究並びにスポーツ栄養学の教育・研究を行い，栄養学の最先端の分野で活躍できる能力を育成します。 3 食デザイン学講座では，幼児，児童・生徒，高齢者の栄養指導や調理指導，あるいは一般消費者の食生活全般を対象にした食育において，デザインや色彩の手法を取り入れて効果を得るための教育・研究を行い，食デザイン学の分野のリーダーとして活躍できる能力を育成します。 4 基礎栄養学講座では，一連の生命現象を遺伝子，生体分子，個体，集団などのレベルごとに理解し，さらに未知なる理論を展開して発展させる力を養うための教育・研究を行い，栄養学の基礎と臨床を結ぶことができる能力，並びに栄養学分野の教育・研究機関にて活躍できる能力を育成します。 5 食品栄養学講座では，栄養学を基盤とした天然物化学，酵素化学，分子遺伝学的アプローチにより，新規機能性食品成分の発見や新たな機能性食品素材の開拓，さらに食中毒の原因解明や予防に基づく食品の安全性の評価方法を開発し，健康増進と疾病予防を目標とした安全かつ高機能を有する食品素材の探求を志向した教育・研究を行い，管理栄養士のエキスパートとして食品関連企業，教育研究機関や行政機関において先導的に活躍できる能力を育成します。 6 外国人による科目を設定しグローバルな視野を育成します。
<p>AP (入学者受入の方針)</p>	<p>栄養学専攻が求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 栄養学関連の教育施設で教育・研究に携わることを目指す学生 ● 医療機関や保健福祉施設で治療栄養に携わる専門的管理栄養士を目指す学生 ● 栄養研究機関や医療栄養関連企業の栄養研究部門で試験・研究に携わることを目指す学生 ● 自治体などの保健施設で地域栄養活動に携わり，栄養指導などのコーディネータを目指す学生

1-(3) 保健福祉学専攻（博士前期課程）

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>保健福祉学専攻は、保健福祉学の理論と技術を修得する組織的な教育研究を行い、保健福祉に関連した臨床や政策の諸問題を解決できる優れた専門性を備えた人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本専攻では次の能力を身に付け、かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保健福祉領域における高度な知識、理論と技術及び論理性を身に付けている。 ● 保健福祉領域における諸問題を解決するための研究を計画・遂行・発表する基礎能力を身に付けている。 ● 生涯にわたって自己研鑽する姿勢と習慣を持ち、国内外の新しい問題に創造的に対応できる力を身に付けている。
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>保健福祉学専攻は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 政策科学講座，社会福祉支援学講座及び保健福祉支援学講座を置き，教育研究を実施します。 2 政策科学講座では，社会保障や児童・高齢者・障害者福祉分野等における制度，政策行政などに関する理論やデータの分析・評価方法を追求する科目を設置しています。 3 社会福祉支援科学講座では，児童，高齢者，障害者，病者のウェルビーイングを達成するための臨床的方法・技術の開発・評価及びそれらの理論化を追求する科目を設置しています。 4 保健福祉支援科学講座では，児童，高齢者，障害者など多様な人々の適応行動に関わる心理的・身体的特性の科学的な分析を基礎にした保健福祉実践につながる理論と方法を追求する科目を設置しています。 5 当該講座分野の理論と実践の前進に寄与しうる高度な研究成果を生み出すことができるよう，主指導教員を中心としながら段階的・系統的に研究指導を行います。
<p>AP (入学者受入の方針)</p>	<p>保健福祉学専攻が求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「やさしさ」，「思いやり」，「人間性」といった豊かな社会性と科学性を備え，保健福祉領域でのリーダーとして活躍したい学生 ● 保健福祉領域における専門職として明確な目的意識を持ち，高度な知識や技術及び論理性を基礎にして，科学的方法によって問題の解決に当たりたい学生 ● 高い挑戦意欲を持って，保健福祉領域の未開拓の領域の研究に情熱を燃やすことができる学生 ● グローバルな視点での保健福祉実践・研究に興味を持ち，国際貢献を果たしたい学生

1-(4) 保健福祉科学専攻（博士後期課程）

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>保健福祉科学専攻は、人間の健康問題に関して、生命や栄養、看護・福祉など各方面からアプローチし、保健福祉科学に係る学問をさらに深化させることにより、保健福祉問題の解決策を提案できる高度な見識を備えた各専門職領域の実践者、指導者、研究者及び教育者の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本専攻では次の能力を身に付け、かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保健福祉科学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を自立して展開する能力を身に付けている。 ● 自らの得た成果を地域・世界に向けて発表するグローバルな情報収集及び発信能力並びに地域・国際社会で活躍できる能力を身に付けている。 ● 保健福祉科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて研究若しくは教育を実践できる能力を身に付けている。
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>保健福祉科学専攻は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保健福祉に関わる学問をさらに深化させ、看護・栄養・福祉のそれぞれの分野において高度の見識と、より専門的な視点から科学的にアプローチする研究を行うために、本専攻に看護学大講座、栄養学大講座、保健福祉学大講座の3大講座を置いています。また、外国人を担当教員とし、英語で講義する科目の設定並びに海外協定校との共同研究の実施により、グローバル教育を行います。 2 看護学大講座では、看護実践を通して生じる諸現象やケアそのものを科学的に解明していくため、慢性疾患患者やがん患者及びその家族が抱える諸問題や、高齢者等のケアニーズに対応する看護システムやケア開発、看護の質向上に資する教育・研究を行います。教育課程は基礎看護学、成人看護学、小児看護学、母性看護学、地域看護学、精神看護学の各分野の講義並びに博士論文指導を中心とした看護学特別研究からなります。 3 栄養学大講座では、食事に伴う栄養現象を分子生物学的アプローチにより解明し、病気の予防に活かすため、食品中の新規有効成分の解明、食品の安全性の追求、慢性疾患における代謝調節系の役割の解明を目指した研究を行います。教育課程は分子生物学、栄養科学、食品科学、病原微生物学の各分野の講義並びに博士論文指導を中心とした栄養学特別研究からなります。また、外国人による科目を設定しグローバルな視野を育成します。 4 保健福祉学大講座では、児童、障害者、高齢者を主な対象として、その自立支援に関する研究を行います。教育課程は、家族保健福祉学、児童保健福祉学、高齢者保健福祉学、障害者保健福祉学、地域保健福祉学、国際保健福祉学の各分野の講義並びに博士論文指導を中心とした保健福祉学特別研究からなります。
<p>AP (入学者受入の方針)</p>	<p>保健福祉科学専攻が求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人間の健康に関する諸問題を解決するために、専門の知識や技術、高度な学問的見識を修得し、自立して研究できる研究者を目指す学生 ● 地域における保健福祉問題を掘り起こして、その対策を立案して、地域における制度や計画作りに参加できるリーダーシップを持った研究者を目指す学生 ● 教育機関や企業、各種研究機関において自立して高度な教育研究に取り組める教育者及び研究者を目指す学生

2 情報系工学研究科

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>情報系工学研究科は、情報工学部における学士課程の教育目標の延長線上にその教育目標を置き、情報技術を活用して、人間及び自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に大いに貢献できるグローバル人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本研究科では次の能力を身に付け、かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報工学とそれに密接に関連する工学について、高度な専門性と技術を身に付けている。 ● 得られた知識を融合的に活用して、新たな技術開発・理論展開を持って社会の発展に貢献できる能力を身に付けている。 ● 技術者に求められる高い倫理観、多面的な思考力、それらに培われた実行力や行動力を備えたいうで、自身の専門分野でリーダーシップを発揮できる能力を身に付けている。
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>情報系工学研究科は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 システム工学という専攻名のもと、連携性のある教育・研究体制を敷き、個々の学生が望む価値の多様性に対応できるよう、選択科目を多く設けています。 2 博士前期課程では、修士の学位を取得することを目的として、情報工学及びその関連分野である電子情報通信工学、機械情報システム工学、人間情報システム工学の3つの領域を専攻内に設け、研究分野に応じた教育・研究ができるようにしています。 3 博士後期課程では、博士の学位を取得することを目的として、情報工学及びその関連分野である電子情報通信工学、機械情報システム工学、人間情報システム工学の3つの領域を専攻内に設け、研究分野に応じたより深い教育・研究ができるようにしています。 4 カリキュラムは、それぞれの課程のカリキュラム・ポリシーに従って、講義演習科目と特別研究から編成されています。いずれの課程においても教員による活発な議論と研究指導に加え、研究科として、また他研究科とも協力してグローバルな幅広い視野と高い応用や研究スキルを涵養します。
<p>AP (入学者受入の方針)</p>	<p>情報系工学研究科が求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報処理、情報通信、機械システム、人間工学などの分野において、これらに関する理論や技術を深く修得し、急速に発展する高度技術社会に貢献することに情熱を傾けたい学生 ● 現在、情報工学についての知識は十分ではなくとも、今まで培ってきた専門分野に、情報工学関連技術を取り込み活用・発展させようとの希望を抱いている学生 ● 急速に進歩し、変化する産業社会からの多様な要請に応えるべく、既存の枠組みにとらわれない総合的かつ先端的な技術を修得し、産業社会に貢献しようとする学生

2-(1) システム工学専攻（博士前期課程）

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>システム工学専攻は、研究者あるいは技術者の立場から、高度情報化社会の中核となって産業社会の発展を支えていく人材、幅広い技術的基盤を基に「実システム」の創造的な設計ができる人材、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた人材、環境変化や産業構造の変化に柔軟に適応できる判断力とコミュニケーション能力を持つグローバル人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本専攻では次の能力を身に付け、かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 工学に対する専門的な知識と応用力を身に付けている。 ● 現実の複雑かつ困難な問題に柔軟に対処し、解決できる能力を身に付けている。 ● 急速に発展する高度な技術社会をリードできる研究能力を身に付けている。
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>システム工学専攻（博士前期課程）は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 情報工学とそれに関連する工学分野の急速な発展に対応できるように、電子情報通信工学、機械情報システム工学及び人間情報システム工学の3つの領域を専攻内に設け、学士課程との連続性も踏まえ、教育研究を実施します。 2 電子情報通信工学領域では、次世代ICT技術の開発・展開に必要な情報処理工学、情報通信工学及び情報電子工学の3分野の専門知識を融合的に修得し、応用力を身に付けるための科目を設置しています。 3 機械情報システム工学領域では、情報工学と機械工学を融合した次世代技術の開発・展開に必要なソフトウェアシステム工学、知的インタフェースシステム工学及び機械・エネルギーシステム工学の3分野の専門知識を融合的に修得し、応用力を身に付けるための科目を設置しています。 4 人間情報システム工学領域では、人間の生活支援に関する次世代技術の開発・展開に必要なインテリジェントシステム、スポーツ・ヒューマンダイナミクス及び人間支援工学の3分野の専門知識を融合的に修得し、応用力を身に付けるための科目を設置しています。 5 領域にのみ留まらず複数教員による活発な議論と研究指導により、グローバルな幅広い視野と高い応用力を涵養します。
<p>AP(入学者受入の方針)</p>	<p>システム工学専攻が求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電子情報通信工学、機械情報システム工学、人間情報システム工学等の分野で高度な専門技術者あるいは研究者を目指す学生 ● 高度情報化社会の発展に、斬新な構想力と実践力を身に付けた技術者として貢献したい学生 ● 専門学術領域を通じて地域産業の振興をリードする意欲のある学生 <p>加速度的に進展する高度情報化社会の中で、産業社会構造の変化に柔軟に対処し、新しい工学分野を共に創造し、新世紀を切り拓く、若さと夢を持った研究指向の技術者を目指す学生の挑戦を期待しています。</p>

2-(2) システム工学専攻（博士後期課程）

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>システム工学専攻は、今後ますます多様化、複雑化する社会からの要請に応えるべく、公的研究機関のみならず民間企業において、情報系の学術分野を現実課題の解決に適応できる研究者及び高度専門技術者を養成することを目標に、専門領域の深化と統合を通じて、新たな問題を発掘し解決する能力を持つグローバル人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本専攻では次の能力を身に付け、かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 工学に対する深い専門的知識と幅広い応用力を身に付けている。 ● 自らの得た成果を地域・世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力並びに地域・国際社会で活躍できる能力を身に付けている。 ● システム工学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて研究若しくは教育を実践できる能力を身に付けている。
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>システム工学専攻（博士後期課程）は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 情報工学及びその関連分野である電子情報通信工学、機械情報システム工学、人間情報システム工学の3つの領域を専攻内に設け、学生は希望する研究分野に応じていずれかの領域に所属します。 2 電子情報通信工学領域では、情報処理工学、情報通信工学、情報電子工学の3分野を設け、専門領域における先端的研究を実施します。 3 機械情報システム工学領域では、ソフトウェアシステム工学、知的インタフェースシステム工学、機械・エネルギーシステム工学の3分野を設け、専門領域における先端的研究を実施します。 4 人間情報システム工学領域では、インテリジェントシステム、スポーツ・ヒューマンダイナミクス、人間支援工学の3分野を設け、専門領域における先端的研究を実施します。 5 所属領域の講義から高度な専門知識を修得するとともに、所属外領域の講義の履修により知識の展開力を錬成します。 6 領域にのみ留まらず複数教員による活発な議論と研究指導により、グローバルな幅広い視野と高い研究能力を涵養します。
<p>AP (入学者受入の方針)</p>	<p>システム工学専攻が求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報処理、情報通信、システム工学などの分野において、理論や技術を深く修得し、新たな問題を発見し解決することによって、産業社会に貢献することに情熱を傾ける学生 ● 産業社会の多様な要請に応えるべく、既存の枠組みにとらわれない総合的・先端的知識や技術を切り開くとともに、企業活動を社会貢献に導くことを希求する学生 <p>特色ある3学科を基礎にする岡山県立大学大学院情報系工学研究科において、自らの専門分野の深化と他分野との複合化・融合化を通じて、自ら問題を発見し解決できる総合的能力を身に付けることを期待しています。</p>

3 デザイン学研究科

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>デザイン学研究科は、グローバルな視野と感性を持ち、社会を的確にとらえ時代の変化を洞察することで、将来予想される問題を優れたデザインの創出により解決し、豊かで新しい便利な生活と文化に寄与できる人材の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本研究科では次の能力を身に付け、かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デザインに係る十分な情報分析能力及び理論構築力を身に付けている。 ● 独創的で造形性豊かなデザインを発信できる能力を身に付けている。 ● グローバルな視野と感覚を持ち、独自の優れた個性を発揮できるデザイン制作能力を身に付けている。 ● 高度な専門性とマネジメント力を身に付けている。
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>デザイン学研究科は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グローバルな視野と感性と独創的で造形性豊かなデザインを発信できる能力を身に付けるために、カリキュラムは、専攻及び領域の連携を図るべく編成されており、専攻共通科目、領域科目に区分しています。 2 専攻共通科目は、両専攻に必要とされる美学・美術史系の科目を中心として編成しており、現代における造形文化を考察し、解明するための視座の獲得を図ります。 3 豊かで新しい便利な生活と文化に寄与できる人材育成のため、領域科目では、所属する領域での高度な専門知識、能力、技術を養う科目により編成しています。
<p>AP (入学者受入の方針)</p>	<p>デザイン学研究科が求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国際的な視野と感覚を持ち、独自の優れた個性を発揮したデザイン制作に意欲を持つ学生 ● 新しいデザイン領域の開拓やデザイン理論の創出、もの作りに意欲を持つ学生 ● デザインを通して、人間性を豊かにし、幸せな社会作りに貢献しようとする意識を持つ学生

3-(1) デザイン工学専攻（修士課程）

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>デザイン工学専攻は、地域社会と産業界の要請に応えられる、高度な専門的知識・技能・技術をベースにした総合的な思考力を有する高度専門職業人として多様な価値創造が可能なデザイナー及び研究者の育成を目指しています。</p> <p>したがって、本専攻では次の能力を身に付け、かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの専門領域に関する十分な情報分析及びデザイン理論による構築力を身に付けている。 ● 社会動向などを見据えたうえで、創造的かつ造形的なデザインを発信できる能力を身に付けている。 ● 高度な専門性を活かし、グローバル化に対応できるマネジメント力を身に付けている。
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>デザイン工学専攻は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高度専門職業人としてのデザイナー及び研究者に求められるグローバルな幅広い見識と視点、高度な専門性を涵養するために、「製品・情報デザイン学領域」、「建築・都市デザイン学領域」の2つの領域を置いています。 2 製品・情報デザイン学領域では、工業製品、日常生活品など製品を対象として、技術と感性の調和を図り、同時にヒトと製品のスムーズな協働（インタラクション）のためにユーザインタフェースなど情報を整理し、豊かな生活を創造する製品の実践的、総合的な教育研究に取り組みます。 3 建築・都市デザイン学領域では、人間生活の根幹となる建築空間を基軸にして、街づくり、都市や地域環境など広範囲な空間領域を対象として、人と環境の調和を目指した体系的・総合的な建築教育とともに、各分野を深く探究する先進的な研究活動に取り組みます。 4 特別研究は、2年間の研究活動を通じて、高度な研究遂行能力を涵養することを目的としています。研究テーマは学生の希望と指導教員の助言により設定され、修士論文及び修士作品あるいは研究科委員会で承認を受けた特定の課題における成果物の作成をします。
<p>AP (入学者受入の方針)</p>	<p>デザイン工学専攻が求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既成概念にとらわれず、個性的で、物事の本質を観ようとする自主性のある学生 ● 豊かな創造力と柔軟な思考力を鍛え、自ら問題を提起し、それぞれの創作を通して、解決策を示し、社会や人々の生活・文化の向上に貢献したい学生 ● 最新技術と伝統との融合による総合的なデザイン力によって、ヒトと空間、ヒトとモノ、ヒトとコトの関係性の中から新たな価値を創造し、人々の生活を豊かで潤いのあるものにした学生

3-(2) 造形デザイン学専攻（修士課程）

<p>DP (学位授与の方針)</p>	<p>造形デザイン学専攻は、造形デザイン学の理論と技術を修得する教育研究を行い新たな造形デザイン構築において諸問題を総合的な視点から解決し、社会に貢献することのできる高度専門職業人としてのデザイナー及び研究者を育成することを目指しています。</p> <p>したがって、本専攻では次の能力を身に付け、かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの専門領域に関する十分な情報分析・構築力及びデザイン理論構築力を身に付けている。 ● 社会動向などを見据えたうえで、創造的かつ造形的なデザインを発信できる能力を身に付けている。 ● 高度な専門性を活かし、グローバル化に対応できるマネジメント力を身に付けている。
<p>CP (教育課程の編成・実施の方針)</p>	<p>造形デザイン学専攻は、学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、次のような教育課程を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高度専門職業人としてのデザイナー及び研究者に求められるグローバルな幅広い見識と視点、高度な専門性を複合的に涵養するために、1専攻1領域制を導入し「造形デザイン学領域」で学生は学んでいきます。 2 印刷メディアを主体とした造形構成・編集や、デジタルメディアを主体としたコンテンツ形成におけるデザイン性・機能性が研究できるよう、ビジュアルデザインに関する高度な専門知識、能力、技術を育成する科目群を提供しています。 セラミック・テキスタイル・木材等を使ったアイテムのデザイン性・機能性や、現代を意識した表現の可能性が研究できるよう、造形デザインに関する高度な専門知識、能力、技術を育成する科目群を提供しています。 3 授業の取組としてプロジェクトに関わり、公共機関や企業などに社会提案を行うことで、実践的にデザインマネジメント力を養っていきます。 4 2年間の特別研究では、研究テーマに基づき調査・分析・考察を進め、論と作品制作を通して造形デザイン学を深く探究していきます。
<p>AP (入学者受入の方針)</p>	<p>造形デザイン学専攻が求める学生像は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 造形や構成などの特性を、柔軟な発想と集積した知識によって分析し、さらに独創的な思考力、表現力などを発揮して、新たな造形デザインの価値創造を目指したい学生 ● 情報化社会のなかで、情報を読み解き、またそれらを組み合わせるなどによって新たな課題発見の可能性を探究し、造形デザインによる社会的価値の創造に結び付けたい学生 ● 社会の動向を注意深く観察する力を養いながら、常に問題意識を持って造形デザインが担うべき役割を追究し、培った力を社会貢献にいかしたい学生